



徳島大学渭水会々報

第49号

発行／徳島大学渭水会
徳島大学総合科学部同窓会

題字：田中 双鶴 氏



「ケヤキ並木」

常三島キャンパスのシンボルともいえるケヤキ並木。屋外配水管等の工事に伴い昨年8月から景観整備が行われていましたが、2020年3月に完成。シックな色調のインターロッキングブロック舗装がケヤキの緑と調和して、とてもお洒落な雰囲気です。徳島師範期成学校創設100周年を記念して植樹されたというケヤキ並木。豊かに枝を広げ、今日も学生達の営みを見守っています。

2020年11月30日発行

目 次

会長ご挨拶	晴耕雨読	渭水会会長 濱尾 巧久 ……	4
学部長ご挨拶		総合科学部長 栗栖 聡 ……	5
Topics	徳島大学創立70周年記念 ホームカミングデー ……		6
研究最前線⑧	デジタルマップを通して地域に貢献する	総合科学部 社会総合科学科 地域創生コース 空間情報論研究室 塚本 章宏 ……	10
連載②	パターン認知の心理をめぐって		
	●イメージ上での回転と反転で決まるパターンの良さ	徳島大学名誉教授 濱田 治良 ……	11
総科をたずねて③			
	●新型コロナ対策下での総合科学部の授業と学生	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 山口 裕之 ……	12
特集	読み物 書き物 ……		14
	●空気を描けるように	宮月 中 ……	14
	●あなたたちに会えてよかった	竹内 紘子 ……	16
連載⑦	私の職場 My Workplace		
	●部活動から繋がった舞台裏方スタッフの仕事	石川 敏子 ……	18
総合科学部が「公認心理師」カリキュラムに対応しました			
	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 社会総合科学域 人間科学系(心理学分野) 内海 千種 ……		20
総科のおたから【其ノ八】	被爆アオギリ ……		23
輝く新星⑥	～第6回渭水会会長賞～		
	●今、見える景色に感謝	東 亜弥子 ……	24
	●一期一会	長樂 楓華 ……	25
	●命輝く学び	矢川由衣加 ……	26
	●今できる努力を	木野 光莉 ……	27
	●渭水会会長賞表彰要項〔改訂〕 ……		28
エッセイ			
	●「私が軍国少女を生きた時代」を出版して	富田真由美 ……	29
	●詩と木の彫刻展	細川 直毅 ……	30
助成事業			
	●高校・特別支援学校部会総会並びに講演会	山村 啓治 ……	32
	●徳島市退職校長会講演会	藤田 正治 ……	32
	●第4回公演 阿波の国子ども歌舞伎	瀬戸 昌子 ……	33
総科ニュース	……		44
徳大ニュース	……		46
事務局だより・編集後記	……		48



渭水会会長
はま お よしひさ
濱尾 巧久

晴 耕 雨 読

会員の皆様には日頃より渭水会の活動にご理解とご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

令和2年度の総会を開催すべく準備を進めて参りましたが、皆様もご存知のとおり「新型コロナウイルス」による感染が日本のみならず世界規模で拡大し、渭水会総会を開催することが難しくなりました。大学とも相談し、5月30日に理事会を開催し、令和元年度の事業報告・決算報告並びに令和2年度の事業計画案・予算案をご審議いただきました。

さて、令和元年は徳島大学創立70周年ということで、11月2日、全体のセレモニーに続いて各学部でホームカミングデーを開催することになりました。渭水会では常三島けやきホールをメイン会場として総合科学部キャンパスデジタルアーカイブやISUIカルテットによる記念演奏、また、常三島食堂Diningキララでの「同窓会 in 学食」を開催いたしました。大勢の会員のご参加があり、楽しいひと時であったとの感想をいただきうれしき限りであります。「ホームカミングデー実行委員会」の皆様はじめご尽力いただきました関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに今後ともよろしくお願い申し上げます。

また、今年は役員改選の年でもあります。長年役員として活躍され、今回退任されました方々に対しましては、この場でお礼を申し上げます。更に、今回新たに役員になられました方々並びに引き続き役員をお引き受けくださった方々におかれましては、会の推進にご協力いただけますようお願いいたします。

ところで、去年より少しばかりの「家庭菜園」を始めました。キャベツ、レタス、トマト、キュウリと育てやすいと考えたものを中心に苗を購入して始めました。ところが、苗が育ってくるといろいろな虫が集まってきました。無農薬栽培に取り組んでいるので、特にキャベツなど油菜科の植物には紋白蝶^{モンシロチョウ}が卵を産んで青虫が育ち、毎朝、その駆除が大変でした。今年はトマト、キュウリに加えてナスやピーマンを育てています。店に並べるほどのものではありませんが自分で食べるには十分です。

新型コロナウイルス感染症の拡大で外出自粛が続いている時節柄、改めて「晴耕雨読」の生活を送っているところです。

令和2年3月18日の徳島新聞「鳴潮」に、「ヘレン・ケラー自伝」より「根というものは自分のさかせた美しい花をけっして見ることはできない運命にあるのです」と紹介されていました。そこで改めて三重苦の奇跡の人「ヘレン・ケラー自伝」(今西祐介 訳)を読みました。

そこには、「わたし(ヘレン・ケラー)は自分の進むべき道にまようとき、いつも常緑樹の林に行くのです。夜のあいだ霜にいためつけられた花や葉が、朝になるとまた身じまいを正して、りりしく大空を見あげています。それを見ると、わたしは心を打たれるのです。また、そんな林を歩いていると、いつも、暗い土の中でせつせと苦勞している根の歌を聞くような気がするのです」そして「根というものは……」と続きます。

私は、未だ「家庭菜園」で根の歌を聞いたことはありません。晴天が続くと水がほしい。嵐の夜は根が支えているから大丈夫だよ。美しい花が咲き、おいしい実が付くよう応援しているよ…等々。いつも暗い土の中でせつせと苦勞している「根」は何を伝えたいのだろうか。目も見えない、耳も聞こえないヘレン・ケラーのみが感じられることなのだろうか。もの言わぬものへの思いに応えることの大切さ、思いやりの心を持つことの大切さを伝えたいのかと。

育てることの難しさ、理解することの難しさを改めて感じているところです。

(昭和40年 学芸学部4年制小学校課程卒)



総合科学部長
くりす さとし
栗栖 聡

学部長のご挨拶

渭水会会員の皆様には、常日頃様々な形で総合科学部並びに大学院の教育、研究、運営等をご支援いただき、誠にありがとうございます。

平成29年度から学部長を務めさせていただきましたが、早いもので、本年度で任期最後の年を迎えることになりました。昨年度のご挨拶で、独自性を発揮していきたいと申し上げましたものの、本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入学式が中止となるなど、これまでにない状況の中で、困難な学部運営を余儀なくされています。

よって、今回はこの場をお借りして、本学部・大学院の状況をご報告させていただければと思います。基本的に本学部の対応は、全学的に規定されています「新型コロナウイルス感染症に対する事業継続計画（BCP）」に基づいています。BCPには、「学生の教育・研究活動（講義・演習・実験・実習・卒業研究・研究指導）」、「学生の課外活動（サークル活動等）」、「学生の学内立入」、「教職員の研究活動」、「大学運営（学内会議、事務体制）」という5つの項目に関して、レベル1からレベル5までの5段階で取るべき措置が規定されています。このレベルは、徳島県の「とくしまアラート」の状況やキャンパス内での感染状況を総合的に判断して、必要に応じて改定されています。BCPにつきましては、大学のホームページに掲載されていますので、ご参照ください。

総合科学部では、前期、一時期対面授業が実施されたこともありますが、県内の感染者数の増加に伴って、最終的にはほとんどの授業を遠隔授業として実施せざるを得ませんでした。当初は、教員に遠隔授業の戸惑いもありましたので、遠隔授業の方法についてFD（研修会）を実施し、またWi-Fi設備の能力が足りなかったため、その増強等を行いました。これまで遠隔授業を実施してきた中で、遠隔授業にはそれ自体の学習上のメリットがあるという認識も生まれています。特にオンデマンド型の遠隔授業の場合、分からない部分を何度でも繰り返し見ること

ができるため、対面授業よりも理解しやすいという学生の声もあります。とはいえ、やはり対面授業でなければ支障が出るという授業（特に実習を伴う授業など）もありますので、状況が好転すれば、十分なコロナ対策を講じた上で対面授業を再開できればと考えています（対面と遠隔のハイブリッド型授業の検討も始まっています）。

今年度学生の皆さんは、多くの遠隔授業を自宅で受け、友人と会う機会も少なく、サークル活動やアルバイトもできないなど、例年とは比べようのない困難な状況に置かれています（困窮学生に対しては、大学として支援金を給付したり、授業料免除者を増やしたり、遠隔授業の補助業務のアルバイトを提供したりといった対応をしています）。特に1年生は、入学以来大学にほとんど登校しておらず、友人を作ったり教員や先輩と話したりする機会もなく、キャンパス・ライフといったものを未だ経験できておりません。よって、1年生に対しては、遠隔の必修授業において、グループワークを多用して学生同士が知り合いとなる機会を提供し、また特に初期の頃は、クラス担任、学生委員等が、定期的にメール連絡をし、学生の状況の確認を行いました。

あえて前向きな解釈をすれば、現在の学生の皆さんは、遠隔での就職面接、遠隔での在宅勤務といったコロナ後の遠隔化の時代に対応する能力を持った、第一世代となる可能性を持っているとも言えます。とはいえ、やはりコロナが早く終息して、活気あふれるキャンパスが戻っていることを、教職員一同待ち望んでいます。

以上、現在の状況をご報告いたしました。皆様も職場や家庭や地域社会において、様々な形でコロナの影響を受けておられると思います。このような状況下にありますので、儀礼的な挨拶ではなく、文字通り、皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶を終わらせていただきたいと思います。



徳島大学創立70周年記念／

ホームカミングデー

記念動画「STORIES ——古写真で振り返る総合科学部——」に見入る来場者



お帰りなさい、^{まな}学び舎へ！ 初めてのホームカミングデーを開催しました

昨年2019年は徳島大学創立70周年のメモリアルイヤーということで、全学部でさまざまな記念行事が開催されました。渭水会では総合科学部と連携し、11月2日、地域連携プラザ 常三島けやきホールにて、初めての「ホームカミングデー」を開催いたしました。

1年前から実行委員会を中心に企画を練り、準備をしてきましたが、おかげさまで大勢のご参加・ご来場をいただき盛会に終えることができました。誠にありがとうございました。

オープニングセレモニーでは、「久しぶりに訪れる母校を楽しんでください」との濱尾巧久会長のご挨拶

に続き、ISUIカルテットによる記念演奏、そして、佐原 理准教授制作の記念動画「STORIES



濱尾巧久会長

——古写真で振り返る総合科学部——」が上映されました。記念動画は、ドローン撮影などデジタル技術を駆使して、この日のために制作していただいたもので、懐かしい母校の映像に、あちこちで「あ！」「あれは……」と指さして語らう人々も……。

会場では、総合科学部社会総合科学科 地域創生コースの桑原 恵教授、佐原 理准教授、塚本章宏准教授のご協力をいただき、「総合科学部キャンパスデジタルアーカイブ」と銘打った写真展を開催。師範学校～学芸学部～教育学部～総合科学部と140年余に渡るキャンパスの変遷をご覧いただきました。

また、常三島食堂Diningキララでは「同窓会in学食」を開催。会場のあちこちで咲いた笑顔、つきない思い出話……青春時代にもどった気分で、楽しいひとときを過ごしていただきました。

好評を博したホームカミングデー。節目の年にまた開催したいと思います。



デジタルアーカイブチーム。左から塚本先生、佐原先生、桑原先生

ISUIカルテット



左から猪子さん、川上さん、生駒さん、下山さん

オープニングセレモニーを美しい調べで彩ってくださったのは、この日のために渥水会ゆかりの方々に特別編成された弦楽四重奏団「ISUIカルテット」の皆さん。徳島交響楽団の指揮者である生駒 元さん（1968年 学芸学部卒）の呼びかけにより、同楽団コンサートマスター・猪子秀太郎さん、コンサートミストレス・川上ちぐささん、ヴィオラ奏者の下山敬子さん——と、楽団を代表する方々が集いました。演奏曲はモーツァルト作曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」。格調高い調べに観客一同酔いれました。

同窓会 in 学食



常三島食堂Diningキララの2階で開催

「学食で同窓会ができれば楽しいのでは？」——というアイデアから生まれた「同窓会in学食」の企画。学年や研究室、サークルなどで昼の部・夜の部合わせて100名近くのご参加をいただきました。？十年ぶりに訪れる学食に「これが学食?!」「すごくきれいね」などと驚く方も。徳島大学オリジナルビール「Very Ale.」で乾杯し、気さくなビュッフェスタイルで、つきないおしゃべりに花を咲かせました。帰り際には「次はいつするの？」という声も。



鯛の香草焼きなど
豪華メニューも

現役学生との交流

ホームカミングデーを開催した11月2日は、実は学園祭の日。模擬店が並び、学生達で大にぎわいの構内を抜けて、け



「被害者支援につなぐ会TSUNAGU」の展示

やきホールへご来場いただくという趣向です。

会場では、設営や受付、案内などを現役の学生に担当していただきました。また、けやきホール隣の地域連携実習室では、総合科学部臨床心理学研究室の内海千種ゼミ内「被害者支援につなぐ会



笑顔で応対！
受付の学生スタッフ

TSUNAGU」による展示も。学生にとっても卒業生にとっても貴重な交流の機会となりました。

オリジナルグッズ



トートバッグも佐原先生のデザイン

来場者になにか記念になるグッズを……と、記念動画やデジタルアーカイブの制作でお世話になった佐原 理先生に、創立70周年記念クリアファイルのデザインをお願いしました。レトロな色合いの写真のコラージュに「TOKUSHIMA TO THE WORLD」のメッセージが光る素敵なデザイン！ このクリアファイルと会報、パンフレットを総合科学部トートバッグに入れてお配りしました。用意した200セットがあっという間になくなり、受付はうれしい悲鳴でした。

ロビーでは、移動カフェ「ナナブンノ珈琲」のご協力で、コーヒーのサービスも。香りに引き寄せられ行列ができました。



ナナブンノ珈琲の西谷里歩さんは総合科学部卒。在学中に起業されたとか

近年よく耳にする「デジタルアーカイブ」とは、博物館・美術館や図書館の収蔵品を始め有形・無形の文化資源をデジタル化して記録保存を行うことです。総合科学部社会総合科学科 地域創生コースの桑原 恵教授、佐原 理准教授、塚本章宏准教授は、地域に残る古写真・古資料をデジタルアーカイブとして未来に継承するプロジェクトを推進しています。

先生方にご協力いただき、ホームカミングデーでは貴重な古写真30点を展示。140年余にわたる常三島キャンパスの変遷を振り返るとともに、写真についての思い出やエピソードなどの聞き取り調査も行いました。木造の校舎、授業の様子、体育祭の仮装行列……懐かしい写真を前に思い出話はつきることなく、特に師範学校や学芸学部時代の卒業生からは、戦中・戦後の大学の復興の様子など貴重な情報も得ることができました。

今後は、これらの古写真や、写真にまつわるエピソードを先生方にまとめていただき、渭水会のWebサイトから閲覧できるよう整備していく予定です。



渭水会の会員からも貴重な写真を提供いただきました。皆さん、熱心に見入っています



情報の聞き取りを行う桑原先生。写真がきっかけとなって記憶の扉が開き、次から次へとエピソードが……



聞き取った情報を写真に書き込んでいきます。反響が大きかったのは左の空撮写真

キャンパス空撮（1955年 学芸学部）



1945年(昭和20年)の徳島大空襲で校舎が焼失(右頁参照)。写真は戦後復興した木造の本館(徳島師範学校～徳島大学)

- ① 現在は大学のグラウンドになっている。体育の天野先生(天野美亀雄先生?)がグライダーの練習をしていたとか
- ② 女子寮。隣接する洗心苑の掃除を寄宿生が担当していた
- ③ 同窓会館「洗心苑」。庭園や茶室まである立派な建物で、茶室では華道部・茶道部の稽古にも利用された
- ④ 体育館 ⑤ 校舎 ⑥ テニスコート
- ⑦ 渭水寮(男子寮)。1階に食堂と学生の部屋、2階に寮の部屋があった ⑧ キャンパスを囲むように南側と西側に土塁があった
- ⑨ 蜂須賀家の立派な蔵があった。戦火にも負けなかった
- ⑩ 正門。左はアコウの大木
- ⑪ 当時はここは大学の敷地ではなかった

おかだちずこ
大先輩の岡田治子さん(昭和24年 徳島県師範学校本科女子部卒)から戦後の貴重なお話を伺うことができました。

＼ バラックでの学生生活 /

1946年(昭和21年)6月10日、徳島県師範学校本科女子部に入学しました。前年7月4日の徳島大空襲で校舎は全焼し、男子部は麻植郡鴨島町(現・吉野川市)の筒井製絲工場、女子部は江川遊園地(吉野川遊園地)内に建てられたバラックが仮校舎でした。女子部の入学生は2クラス88名。教室には黒板と教卓、小さな小さなベビーオルガン1台がありました。戦後のものがなかった時代です。教科書もなく、ひたすら黒板の板書をたよりに勉学に励みました。

＼ 校舎復興を目指して /

戦禍で失われた校舎復興の資金集めに、先生方や男子部共々丸となって劇団が結成されました。県下各地の小学校や芝居小屋で公演を行うのです。音楽・舞踊・寸劇など演目は多彩で、なかでも近藤良三(哲司郎)先生の独唱、三橋都美子先生のダンスなど今も忘れ得ません。団員は日々練習に打ち込み、



本科3年、常三島校舎にて。前列中央は家政科の山本 正(まさ)先生。前から2列目、右から2人目が岡田さん

他の学生もそれぞれチケット販売や会場設営、団員の食事の用意など裏方の仕事に大忙しでした。



江川遊園地の仮校舎前で入学式の記念写真。モンペに下駄履き、セーラー服の初々しい少女たち。前から2列目左端が岡田さん

＼ 待望の常三島校舎へ /

1949年(昭和24年)、卒業間際の3年生の3学期、待ちに待った常三島校舎へ! 板張りの廊下を下駄履きで闊歩する男子部の笑顔が印象的でした。待望の音楽室にもスタンドピアノが……うれしかった!! 音楽会も一度だけ男子部と合同で行いました。3月16日の卒業式まで新校舎で過ごした期間は短かったけれど、それだけに凝縮した感動で満ちていました。

私達の卒業後、学制改革により徳島師範学校は徳島青年師範学校とともに学芸学部之母体として包括され、1949年5月31日、新制徳島大学が発足しました。

私は昭和4年生まれ。満州事変、日中戦争、太平洋戦争、そして終戦と、人間形成で最も大切な幼少期を戦争とともに生きました。不自由な生活を当然として、不安のみの起伏の道のりは短くもあり長いようでもありました。今ある事を感謝しながら――。

徳島大学創立70周年記念限定版 渭水会クリアファイル

徳島大学創立70周年記念 ホームカミングデー開催に際して制作した渭水会オリジナルクリアファイル。総合科学部社会総合科学科 地域創生コース准教授 佐原 理先生によるデザインで、表面には東京オリンピックの聖火リレー、裏面には昭和30年代の常三島キャンパスの画像があしらわれています。

手元に少し残っておりますので、ご希望の方に1枚100円(送料別)でお分けしたいと思います。購入ご希望の方は、電話・FAX・郵便・E-mailなどで渭水会事務局へお申込ください。数に限りがございますので無くなり次第終了となります。ご了承ください。



〔表〕



〔裏〕

デジタルマップを通して地域に貢献する

総合科学部 社会総合科学科 地域創生コース 空間情報論研究室 つかもと あきひろ 塚本 章宏



「GIS」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか？おそらく多くの方が聞いたことがないと答えるのではないのでしょうか。しかし、私たちの便利で快適な生活のなかに、このGISの技術は少なからず貢献しています。GISの正式名称は「Geographic information systems」で、日本語訳は「地理情報システム」と言います。地理的な情報(緯度経度や住所など)を蓄積・加工することで、あらゆる地理的な現象を視覚的に表示する技術で、この技術の発展によって、簡単にデジタルマップを作成・活用できるようになりました。例えば、スマートフォンのGPS地図サービス、カーナビゲーション、天気予報、交通情報、ショップ検索、ホテル予約、位置ゲームアプリなど、デジタルマップのサービスを、誰でも一度は利用したことがあるのではないのでしょうか。これらのサービスの基盤にある技術がGISです。

私の研究室では、こうしたデジタルマップを単なる情報が集約された地図ではなく、地域の課題を解決するためのツールと位置づけて研究を進めています。例えば、近年の大規模自然災害の増加とともに注目を集めているハザードマップに関する取り組みがあります。避難訓練時に住民の方にGPSロガーを所持して避難してもらい、その経路と速度を記録します。そのデータを分析して、地図上にアニメーションで再現することを行っています。自治体から紙媒体で配布されたハザードマップの情報に加えて、この成果をもとに地域のワークショップなどで話し合う材料として、避難行動における課題を発見して改善へとつなげていく取り組みを継続して進めています(図1: GPSで取得した避難経路)。



図1: GPSで取得した避難経路

また、最近では、古写真をデジタル化してオンラインマップ上に配置して、写真とそれに纏わるエピソードを閲覧することができるサイトを整備し、地域の記録と記憶を未来につなげていくためのプラットフォームを構築するプロジェクトを、総合科学部の同僚である桑原恵先生や佐原理先生と進めています。この

プロジェクトは、渭水会の皆様にもご協力頂き、徳島大学に関わる多くの古写真を集めることができました。都市開発が進み、洪水の痕跡が消え、商店街の人通りが減り、ファッションが変わり、あらゆるものが現在に至るまでの変化の過程を、古写真は撮影された状況を記録するだけでなく、そこには個人の記憶が多分に含まれており、おぼろげになった記憶を呼び覚ますきっかけにもなります。地域の歴史、文化、風景が急速に変わっていく現在において、過去の記録と記憶を継承するプロジェクトは重要です。この取り組みを一般公開する準備とともに、徳島大学周辺に止まらず、徳島市、徳島県へと拡大させていきたいと考えています。(図2: 徳島大学総合科学部キャンパスアーカイブ)

ここで紹介した成果は一部ですが、GISや地理情報の技術は生活に広く応用されるようになってきており、より身近なものとなっていくと思われます。今後も、GISを活用して地域社会に貢献できるような研究・教育に精進してまいりたいと考えております。

最後に、このたび徳島大学総合科学優秀賞を受賞できたことを大変光栄に感じております。この受賞は、徳島大学に備えられた研究環境はもちろんのこと、過去から現在に至るまで、徳島大学に関わってこられた先生、学生、卒業生、事務スタッフの皆様のおかげです。ここに感謝申し上げます。



図2: 徳島大学総合科学部キャンパスアーカイブ

パターン認知の心理をめぐって

イメージ上での回転と反転で決まるパターンの良さ

徳島大学名誉教授 はま だ じ ろう
濱田 治良

イラスト：尾田 理左氏
(平成26年絵画表現研究室卒)



パターンの良さについての長い歴史的論争の後に、1963年に米国ジョーンズ・ホプキンス大学のW. R. ガーナー氏らが突破口となる論文を発表しました。彼らは無数にある図形の中で図1の5つの黒丸からなるパターンを考案しました。ここで(a)(b)(c)のパターンを両面コピーし、かつ正方枠だけを別に描いたとします。そして、この枠内でパターンを移動させたときに現れるパターンの個数を数えました。移動の仕方は90°単位で回転させること、そして表と裏を反転させることです。すると(a)は1つ、(b)は4つ、(c)は8つでした。そこで彼らは大学生にこれらを含む90個のパターンを1から7の点数で評定してもらいました。そして彼らはパターンの個数が少ないほど良さが高いことを発見しました。この結果は私たちがパターンをイメージ上で無意識的に回転と反転をさせて、パターンの個数にもとづいて良さを判断していることを意味します。

パターン	パターンの 個数	
(a)	1	良 い
(b)	4	中 間
(c)	8	悪 い

図1 パターンの個数と良さの関係

その後、北海道大学の今井四郎氏らは1976年に図2を含む68個のパターンを使って追実験をしました。(a)は4本の対称軸をもちパターンの個数が1であり良さは最高(平均値で5.6)となり、(e)は対称軸をもたずパターンの個数が8で良さは最低(2.9)になり、ガーナー理論が支持されました。しかし(b)(c)(d)はパターンの個数がすべて4であるにもかかわらず良さは一致せず、この理論には矛盾が生じ

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
パターンの個数	1	4	4	4	8
移動方法	90°回転と 4本軸反転	斜め軸反転	垂直軸反転	180°回転	360°回転
良さの平均値	5.6	4.0	4.7	4.3	2.9

図2 移動方法と良さの関係

ました。そこで今井氏はこの理論を踏襲しつつ、パターンに回転と反転の移動をさせても元の形に戻る性質を使った理論を提唱しました。(b)と(c)は1本の対称軸に沿って反転させると元の形は戻りますが軸の方向が違います。(d)は対称軸をもちませんが180°回転させると元の形は戻ります。このようにパターンの個数が同じでも元の形への戻し方が違うので、良さが異なるとしました。

次に徳島大学の松田隆夫氏は1978年に図3を含む192個のパターンの良さが今井理論に従うことを確認しました。ここで360°回転でしか元の形に戻せず、枠目と白円の有無によって形状が大きく違う4つのパターンの良さは一律に最低でした。つまりパターンの良さは形状の影響を受けにくいのです。一方、パターンの複雑さは形状に大きく左右されます。たとえば私たちは図3で(a)が単純で(d)は複雑だと感じます。パターンの良さは回転と反転の移動方法に強く依存しますが、複雑さはその移動方法と形状双方の影響を受けるのです。パターンの良さと複雑さがどのような認知処理を受けているのかが現在も世界で探求されています。

(昭和46年 教育学部小学校課程心理学教室卒)

	(a)	(b)	(c)	(d)
360°回転				
良さの平均値	2.7	2.6	2.6	2.5

図3 同じ移動方法と異なる形状の効果



新型コロナ対策下での総合科学部の授業と学生

徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 やまぐち ひろゆき
山口 裕之



2020年の新学期は、「コロナ対策」に翻弄された。卒業式や入学式は中止、1年生のオリエンテーション行事はウェブを使って行われた。授業も開始を2週間遅らせて、基本的にウェブを使った遠隔授業で行うことになった。

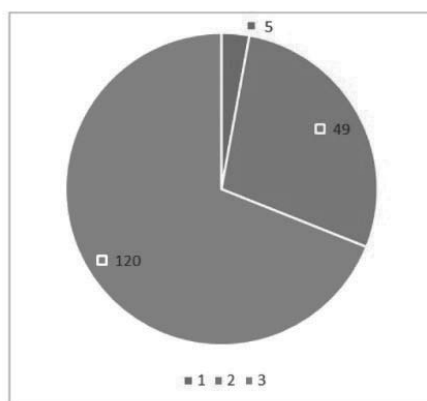
私は1年生全員必修の授業「総合科学入門講座」の担当者代表をしているので、彼らがスムーズに授業を受けられるように連絡を取り、その後も相談の受付窓口として働くことになった。2年生以上の学生も大変ではあろうが、とくに1年生は大学に入学したものの大学にほとんど来られないということで、切迫した状況に追い込まれていることが予測された。

遠隔での授業を実施しながら、そのなかで「経済的に困窮していませんか」「悩み事はありませんか」などとアンケートを行い、個別の相談については担当部署と連携して対応した。

4月17日に行った最初の調査の結果、新1年生175名中、「経済状況がかなり悪化しており、通常の授業料減免に加えての支援が必要」と回答したのは

5名、「少し悪化しているが追加の支援は必要ではない」が49名、「経済状況にあまり変化はない」が120名であった。そうした結果を学部で報告し、全学的な対応を求めたところ、「困窮学生への3万円の給付」「クラウドファンディングによる学生支援」という回答を得た。また、学務係では、「遠隔授業の補助業務」についての学生バイトを募集し、困窮している学生への支援に充てることとなった。私としては、上記の5名のうち、緊急のバイトを希望していた3名を紹介した。

あわせて、下宿生の在所を調査したところ、下宿生102名のうち、89名が下宿先に居住していることが明らかになった。実家に待機している者は13名であった。対面授業開始がいつになるかはっきりしない中で、自宅に帰るに帰れない者が多く、そうした学生が孤立していることが危惧された。実際の個別の相談として、「下宿で孤立している」といった内容のものが何件かあったため、上記のバイトを紹介するなど、「社会的つながり」が持てるように対応を行った。



- ① かなり悪化しています。通常の学費免除などに加えての支援が必要です。
- ② 少し悪化していますが、現時点では通常の学費免除は必要ではありません。
- ③ 経済状況にあまり変化はありません。

学生の経済状況についてのアンケート結果

5月8日には、「現在、困っていることは何ですか」というアンケートを行ったところ、最多は「生活の乱れ」(87名：複数回答)で、二番目が「勉強をやる気の喪失」(78名)であった。これらはコロナ対策の有無にかかわらず、例年この時期の学生がよく陥る状態かとも思われる。しかし、3番目は、「ウイルス関連の報道や店舗の休業などにより感じる現状や将来に対する漠然とした不安」(59名)、4番目は「孤独感」(56名)であった。

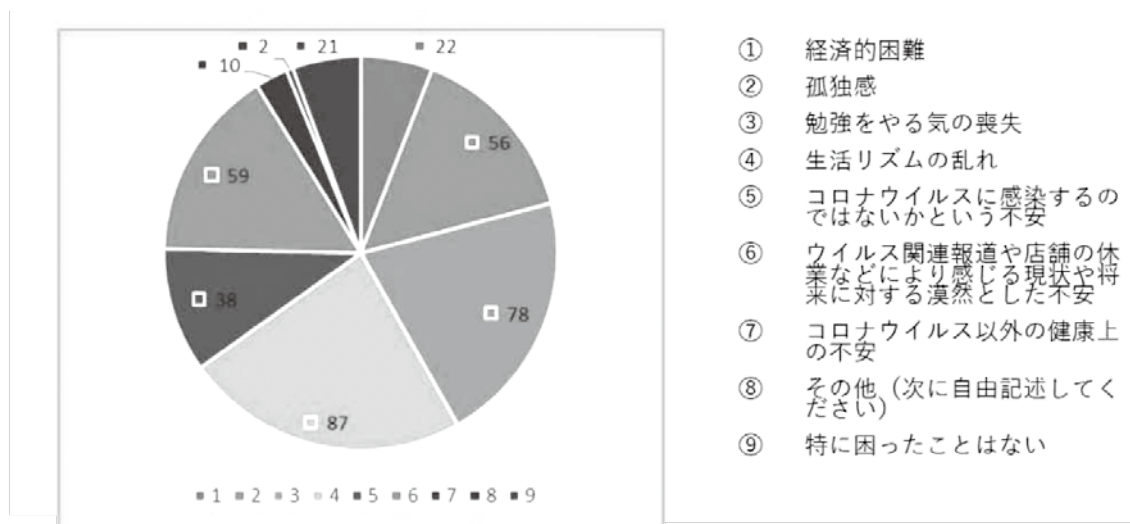
そこで、SNSなどで流通するデマに惑わされず、正確な情報を得るようにと、「厚生労働省のコロナ感染者データ」を調べさせ、未成年の感染者数が少ない理由の仮説を立て、データを使って検証するなどの課題を与えた。

翌週5月15日の授業では、ウェブを使った「遠隔ビブリオバトル大会」を行った(依岡隆児先生のご指導による)。具体的には、Zoom会議システムを利用して、5名程度の小グループに分けて、自分のお勧めする本を1人5分で仲間に紹介し、全員が紹介し終わったところで、「一番読みたくなった本」を

決めるという競技である。同級生と話をする機会を作ったことで、多少は孤独感を緩和する効果があったものと思われる。

その後も、矢部拓也先生の指導による「新型コロナによって陳腐化する総合科学入門講座の授業」(5月25日)というエキサイティングな講義と学生小グループディスカッションを組み合わせた授業などで、遠隔ながら学生が交流できる機会を持つように工夫している。

6月1日より対面授業が解禁されたが、受講生が多い「総合科学入門講座」は遠隔での講義を継続している。そうした逆境の中にあっても、英国エセックス大学人権センターフェローの藤田早苗先生の特別講演を、Zoomで日本と英国をつないで行うなど、遠隔ならではの授業を工夫し、最大の教育効果が挙げられるように努力している(饗場和彦先生のご紹介による)。コロナの危機が去った後も、この間に行った工夫を生かして、効果的な授業を行いたいと考えている。



学生の困っていることについてのアンケート結果

「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである」と説いたのは、17世紀フランスの哲学者・デカルトです。時代は変わり、電子書籍やインターネットなど媒体は変わっても、読書の楽しみは変わりません。2018年に創設された「阿波しらさぎ文学賞」(主催:徳島新聞社、徳島文学協会)において25歳以下を対象とした「徳島文学協会賞」を2年続けて受賞した宮月 中さんは、現役の徳島大学院生です。竹内紘子さんは教師としての経験を生かし、児童文学の分野で精力的に執筆を続けています。言葉を綴り、物語を編み、作品を創作する人たちを紹介します。

空気を描けるように

みやつき ちゅう
宮月 中

いつから物語を作り始めたか覚えていない。年齢も忘れてしまうぐらい小さいころ、両親に「今日は何の夢を見たの」と聞かれ、喜んだ顔が見たくて咄嗟に作ったお話や、幼稚園のお遊戯会で、オリジナルの劇を原案したことなども含めれば、創作歴はずいぶん長いように見える。小学生の頃、自由ノートに下手くそな絵で漫画を描いていたが、卒業文集には「将来の夢は彫刻家」と書いていた。中学校ではパソコンを覚え、友人と交換日記のようにリレー小説(のような何か)を送り合っていた。部活ではアマチュア無線をやった。読書をちゃんと始めたのは

高校生の頃だった。理由は「なんかかっこいいから」「シリーズが棚に並んでいくのが気持ちいいから」「ちょっと良いことをしている気分になれるから」。極めて不誠実な読書家だったと思う。高校にも文芸部は存在していたが、特に気になることもなく、写真部で活動をしていた。

こうして思い返す限り、創作は影こそ傍にいたものの、明確に完結した一つの作品として立ち現れるようになるのは、ずいぶん後になってのことだった。「小説を書いて推敲し印刷し誰かに読んでもらう」という一連の流れを体験したのは大学生になってから

徳島大学文学クラブの月刊誌「奎星」



だった。

2012年度の入学後、とりあえず何か沢山やってみようとして「学生ボランティア部」「映画研究会」「文学クラブ」を兼部し、最終的に文学クラブに落ち着いた。入部当初、文学クラブの活動は年に数回の部内誌発行が主で、作品も身内で読み合うのが中心になっていた。ところがわたしの代にはやる気の強い子がいて、2年次には「隔月くらいで部外配布にも耐えうる部誌を作りたい」と言い出すので、文章の書ける友人たちを勧誘し、部誌も新設し、わたしは編集を担当することになった。先輩方はいつの間にか見えなくなり、部室はまるでわれらが根城ねじろのような空気を醸し出した。普段はおいしい紅茶を入れ、楽器を持ち込み、内装をオシャレにして日々くだらない雑談を繰り広げる。アイデアや表現はそういう中で浮かび上がってくる。

クラブとしての活動は「作品募集⇒校正・編集⇒製本⇒感想会」を1か月ごとに行うスタイル。感想会は部員同士で作品を読み合い意見を言い合うもので、僕の作品は得てして褒められていたように思う。作品がことさら優れたというわけではなく、単にドロドロに甘やかされていただけだった気もするが、初めはその気風が性に合っていた。と言うのも人は褒められすぎると、自分で勝手に「なんか、こう、このままではいけないんでなかろうか……」な

どと思いはじめ、反省点や改善点を探すようになるらしい。そうこうしているうち、作品になんとか「自分のテーマ」的な何かを探すようになる。文体を気にするようになる。物語に深く重厚で高尚な問題を取り入れた方がいいのかな、と悩みだし、登場人物の一挙手一投足に意味を持たせようとする。けれども、そうして出来た作品が今度はピンと来ない。感想会で「こういう所は上手く書けなかった」と言う「確かにそうかも……」と返事が来る。大学3年から4年にかけての一時は、そんなこんなで随分迷走していたように思う。でもその遠回りが結果として大事だった。ふと振り返ってみれば、日常部室で交わす会話にはさして重要なメッセージが隠れているわけでもなく、けれどもその場にのみ立ち現れる雰囲気みたいなものは確かに宿しているのだった。それから卒業までのしばらくは、作品の中に在るはずの「空気」を描くことに専念した。

一昨年、昨年と阿波しらさぎ文学賞へ応募をし、ありがたいことに若手対象の賞を頂いた。最近では文芸誌の新人賞をはじめとした公募作品に取り組んでいるが、そんな中であって、たまに相手の顔色を窺い「文芸らしい」ものを作ろうとしてしまうこともある。そういう時、部室でのなんでもない会話をよく思い出す。それで大抵、初心に立ち返れる。

(平成28年 総合科学部人間文化学科国際文化コース(比較文化研究室)卒)

サークル活動（感想会）の様子





あなたたちに会えてよかった

たけ うち ひろ こ
竹内 紘子



電話が鳴った。枕元の時計を見る。午前3時。いたずら電話か？

寝ぼけた声で「もしもし……」。しばし無言。息遣いが伝わってくる。切ろうとすると「先生、わたし、もう学校には行けんケン」。一度に目が覚めて、飛び起きた。「〇〇さん?」。無言。数秒後、電話が切れた。

電話の主は数日前から行方が分からなくなっていた女生徒からだった。あとで、親の借金が原因で一家で夜逃げしたことが分かった。彼女がその後どうなったか、わからぬままだった。1980年代、バブルがはじけて日本は混乱していた。それは即、学校現場に反映され、家庭内暴力、学校内暴力、不登校と問題が噴出していた。教師として対応に追われ疲弊した。そんな時、出会ったのが灰谷健次郎だった。

元教育者として小説家として描く「現代の教育」の在り方に共感し、自分の至らなさに涙した。はじめて「教師」としての自覚が生まれた気がした。がむしゃらに「熱血漢」を演じてきたが、ある時、冷水をかぶせられるできごとが起こった。娘が「不登校」になったのだ。「ウチの子に限って」という決まり文句の果ては先の見えない長い、暗いトンネルだった。

それまで、このやっかいな「心の問題」に対処する方法がなく、いじめ問題なら当事者の話し合いとか、「社会に出るとそんな甘いものではない。こんなことでへたっていたら、社会では生きていけない」などと、それなりの助言(?)をしてきた。それがいかに当事者にとって何の役にも立たない事か、いや、むしろ、傷口に塩をすり込むような発言であったか。立場を変えて見えてきた「学校、教師という



まぶらいの島

映画化(多部未華子主演「ゴーヤちゃんぶるー」)、DVD化され、韓国で翻訳出版。第50回毎日児童小説コンクール最優秀賞受賞。

2002年刊 >> くもん出版



お遍路ウォーク

不登校の中学生ナオトはふとしたきっかけで四国巡礼のお遍路ウォークに参加する。さまざまな人との出会いを通して、生きる力を取り戻していくのだった…。

2008年刊 >> くもん出版



おいべっさん

徳島を舞台に、主人公サヤの目を通して豊かな自然や人間模様、箱廻しなどの文化がいっきと描かれている。

2012年刊 >> 解放出版社



スクールゾーン

今を生きる子どもの心、命や自然を綴った全32編を収録した詩集。イラストの川野芳紀氏はなんと教え子！

2005年刊 >> らくだ出版

ものの冷たさ・無力」を実感した。

あのことは今思い出しても、苦い。だが「人生に無駄なことは何もない」といわれるように、この経験は私を「書く」行為に向かわせることとなり、おかげで人生の生きがいを手に入れることとなった。今まで出会ってきた青嵐に採まれた人たちに謝りたい。「創る」世界の中で「その後の世界」を祈りたい。その思いで「児童文学」を書き始めた。

以後、ずっと創作活動を続けられたのは人の絆のおかげだ。二度目の受賞時に出版社につながってくれたのは、大学の同窓生だった（「同窓会」を開ききっかけにもなり、現在も旧交を温めている）。この本は映画化され、韓国版・電子書籍と今も読まれているらしい。

絵本を出したところ、さる新聞に取り上げられ、広島・岡山の中学校養護教員の方々の口こみで「駆け込み寺的保健室」に置かれ、読まれた。さらに絵本に教え子が曲を創りCDを出し、彼のピアノで朗読会を開催し「創作」の輪の広がりに驚きと喜びを感じている。

部活動から生まれた研究もあった。文芸部という地味なオタク活動を「文学散歩」という形で郷土研究をし、世に埋もれた人を彼らと発掘(?)した。



同窓生たちと「同窓会」



絵本のCDを作ってくれた教え子とコンサート

文芸部から図書委員会、授業の中でと実施する形態を変えつつも、次代の若い人たちにつなげたいと願ってきた。

このように、わたしは教師でなければ「創作」はやってなかったかもしれない。教師であったからこそ、多くの人たちが受け止め広げてくれた。正直なことをいうと大学を出たものの、教師という職には「むいていない」とずっと思ってきた。それは今もそう。優秀でなかったから「教師」になりきれず、その苦しさを「書く」ことで吐き出してきたのだ。この原稿を書くにあたって、あらためて卒業証書を確認したら、昭和41年3月15日「学芸学部卒」の日付であった。そして4月から大学は「学芸学部」から「教育学部」と変わった。自分の人生を考えさせられる改称でもある。

(昭和41年 学芸学部中学校教員養成課程国語教室卒)

プロフィール

竹内 紘子 (たけうち ひろこ)

徳島市在住。1966年徳島大学学芸学部中学校教員養成課程卒業。県立高校、私立文理中学・高校勤務。日本児童文学者協会徳島支部長。文章教室講師。読売新聞「こどもの詩」選者。

受賞歴

【児童文学】

1983年「第33回 毎日児童小説コンクール」中学生部門・最優秀賞
同年「月刊『絵本とおはなし』」新人賞
1986年「学年別子どもファンタジー『ミサイルの虫』」入選
1993年 国民文化祭いわて児童文学部門受賞
2001年「第50回 毎日児童小説コンクール」中学生部門・最優秀賞
2005年『詩集・スクールゾーン』第12回日本自費出版文化賞入選
2012年「第38回部落解放文学賞」最優秀賞

【郷土史研究】

1991年 康楽賞—徳島の文化を育てる教育実践—
2002年 第37回徳島新聞賞・教育賞—郷土史の掘り起こしと教材化—
2008年 とくしま文学賞・文芸評論部門最優秀賞—W・A・フィニッシュ—
2020年 とくしま文学賞・文芸評論部門優秀賞—泰緬鉄道—ある英国人捕虜日記—

著書

【児童文学】

『ミサイルのむし』（アンソロジー・表題作にて収録 1986年刊 金の星社）
『徳島の童話』（アンソロジー・「藍の花」を収録 1999年刊 リブリオ出版）
『まぶらいの島』（2002年刊 くもん出版）映画化、韓国版・電子書籍化
『お遍路ウォーク』（2008年刊 くもん出版）
『おいべっさん』（2012年刊 解放出版社）

【絵本】

『星の実』（2000年刊 自費出版）

【詩集】

『天地（あめつち）と』（1993年刊 近代文藝社）
『スクールゾーン』（2005年刊 らくだ出版）

【郷土史研究】

『オーストラリアから来た男』（2000年刊 自費出版）

[連載⑦]

My Workplace

私の職場

総合科学部が創立されて早や30年余。
国内外を問わず多方面の職場で活躍されている
渚水会々員の皆様に、職場の状況や特色、体験談など、
その職場ならではのエピソードを語っていただきました。

舞台照明

部活動から繋がった舞台裏方スタッフの仕事

いし かわ とし こ
石 川 敏 子



2020年2月末からのコロナ禍の中、皆さまいかがお過ごしでしょうか。と言っても5月の自粛要請中から比べると普段の生活を取り戻している人の方が多いのではないのでしょうか。私の職場である舞台イベント業界は7月現在、まだ渦中のど真ん中にいます。

私は今、舞台で照明裏方のスタッフをしています。私のコロナ禍は2月26日、あわぎんホール郷土文化会館でコンテンポラリーダンスの仕込みをしているときに突然やってきました。「明後日からの本番ができないかもしれない」制作サイドからの通達でさっきまでしていた仕込みが中断。ちょうど、安倍総理大臣（当時）から全国的なスポーツ、文化イベント等への自粛要請が出された時です。当初の予定は2週間。まさかここまで続くとは夢にも思っていませんでした。その後、3月1日の徳島市体育館のプロレスの仕事はありましたが、それ以来7月現在まで私は照明の仕事は1本もしていません。一応、会社員なので月に半分ぐらいは出勤しています。出勤することは機材の整備。それももう終わりが見えて

きたので毎日、鳴らない電話の電話番をしています。

舞台照明の仕事をするようになったきっかけは徳島大学時代の部活動からです。当時、私は演劇部に所属していました。部活動でも照明裏方スタッフをしていましたが、部活の先輩に現在、勤めている有限会社グルッペのアルバイトを進められまして今日まで至っています。

コロナ禍になるまでは「あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）」「鳴門市文化会館」「アスティとくしま」などでダンス、音楽会、コンサート、イベントなどの舞台照明を行っていました。コンサートというとい一般的には表方の華やかなイメージが出てくると思いますが、私の仕事はあくまで裏方なので毎日、暗い服装でホコリをかぶっているような状態で仕事をしています。女性なのでよく「力仕事や高所作業は違う人がしてくれるんでしょ?」「写真1のような操作だけしてるんでしょ?」と聞かれることが多いですが、男女ともに仕事内容は同じです。海外ではそれぞれ役割分担をしているところもあるようですが、日本の



写真1「あわぎんホール」打ち込み作業



写真2「あわぎんホール」明り合わせ、仮フォーカス



【上】写真3「アスティとくしま」仕込み作業
【下】写真5「あわぎんホール」Japan#31project



写真4「アスティとくしま」阿波踊り本番

多くのスタッフはプラン、データ打ち込み、仕込み、フォーカス（写真2）、本番、撤収まで一連の作業を同じ人間が行います。プランや打ち込みはデスクワークですが、仕込みと撤収作業は力仕事です。ヘルメットや安全帯をつけて工事現場のような恰好で作業することもあります（写真3）。昨今は機材の軽量化がどんどん進んでいますが、それでも10kg程度のスポットライトを仕込むことが多々あります。おかげで腕の筋肉はしっかりつきました。本番中はアルバイト時代から今もしているピンスポット操作や本番中の転換などを行うステージマン、それから最近は照明チーフとして調光卓の操作を行うことも増えてきました。

楽しい職場ではありますが、職業としては低給、きつい、汚いの三重苦でもあります。各イベントに寄りそった仕事なので定休日も決まっておらず、一日の労働時間も決まっていません。実は私は一児の母でもあります。この業界ではとても珍しい人間です。というのは徳島では産休育休明けに正社員で復職して今も働いている女性は他にはいないのです。今までは転職する、もしくは会社員ではなくフリーランスやバイトとして復職する方ばかりでした。一日の労働時間が決まっていないというのが子どもを持つ母には厳しいのです。出産前は私も転職するつもりでいましたが、夫や自分の母父、会社に協力してもらってなんとかこの仕事を続けています。

今年度はコロナの影響で中止が決まりましたが、徳島のメインイベントと言え、やっぱり「阿波踊り（写真4）」。我が社にとっても1年を通してメインイベントであります。去年はあわぎんホールとアスティとくしまで照明チーフをさせてもらいました。踊

りや音に合わせて、照明をつけていくのはやっぱり楽しい作業です。やり始めると本番の10倍以上の時間を作業時間に費やしたりしています。今年は残念な思いと来年度の復興への願いを込めて、選抜阿波踊り大会が行われる予定であったあわぎんホールで「Japan#31Project」（写真5）というライトアップイベントをしました。このイベントは、全国の裏方スタッフが「私たち裏方スタッフはコロナに負けない」という意思表示をするというもので7月の毎週月曜に開催しました。仕事ではなく、自主的にイベントに携わるのは初めてなのでバタバタしましたが、久しぶりに照明ができて、それだけでもよかったと思います。

舞台の本番は映像に残すことも少ないので、やり終えた後に形が残ることはほとんどありません。それでもお客さんや出演者の「今日はよかった！」の一言のためにコツコツと仕事をしています。人々の心を豊かにするために舞台芸術というものはあると思っています。コロナ終息後には、また舞台を見に来てもらえるように今は技術を衰えさせないように励みたいと思っています。

（平成16年 総合科学部人間社会学科経済経営コース卒）



「潮のちいさな音楽会」本番。「あわぎんホール」にて

総合科学部が 「公認心理師」カリキュラムに対応しました

徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 社会総合科学域 人間科学系 (心理学分野)

うち うみ ち くさ
内 海 千 種

「公認心理師」——心理職初の国家資格——

皆さんは、心の健康問題に取り組む職種として、どのような名称が思い浮かぶでしょうか？ 心理カウンセラー、心理相談員、スクールカウンセラーなどなど。これらの“名称”は、心理職をあらわすものではありませんが、公的な“資格”ではありませんでした。

様々な経緯を経て2015年9月、心理職初の国家資格である「公認心理師法」が成立し（2017年9月施行）、2018年9月に第一回公認心理師試験が実施されました。2019年2月より「公認心理師」として、心理学に関する専門的な知識や技術をもって、心の健康問題に対応できる人材の登録が始まっています。

徳島大学で養成している心理職

徳島大学大学院では、これまで長らくの間「臨床心理士」受験資格取得者の養成をしてきました。この「臨床心理士」に加え、2018年度入学生より臨床心理学専攻において、「公認心理師」受験資格取得のためのカリキュラムを開始しています。これを受けて、総合科学部でも準備を開始し、2020年度入学生より正式に「公認心理師」養成のためのカリキュラム対応が始まっています。

※総合科学部での養成については、演習や実習の受け入れに人数制限があります。

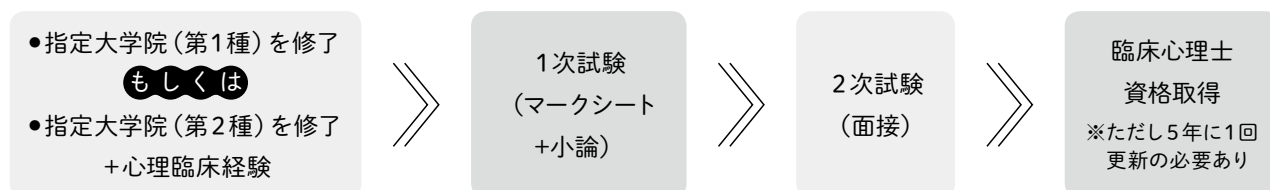
●「臨床心理士」

皆さんには、この「臨床心理士」の方が耳慣れているかもしれません。「臨床心理士」は、「臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題にアプローチする“心の専門家”」（日本臨床心理士資格認定協会webサイトより）です。この資格は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する民間資格で、多数存在する心理職関連の民間資格の中でも取得難易度が高いと言われています。

「臨床心理士」の専門業務は、主に以下の4つです。

- ①**臨床心理査定**：心理テストや心理面接等を通して、相談内容に対して、どのように支援をするのか明らかにすること。
- ②**臨床心理面接**：相談依頼者（クライアント）に対する相談業務全般を指します。一般的に知られている心理カウンセリングもここに入ります。
- ③**臨床心理学的地域援助**：学校や職場をはじめとするコミュニティの心の健康や、地域住民が被った被害への支援活動を行うことです。
- ④**調査・研究**：技術的な手法や知識を確実なものにするために、上記、①～③に関わる調査・研究も、専門業務の中に含まれています。

本学大学院は、「臨床心理士」養成のための第一種指定大学院として認可されています。図1にあるように、大学院から養成が始まるため、基本的には指定校の大学院に入学すれば、学部専攻は問われません。ですが「公認心理師」と異なり、資格試験時に面接試験まである他、資格取得後も専門的資質の維持・向上のため5年ごとの資格更新が義務付けられています。



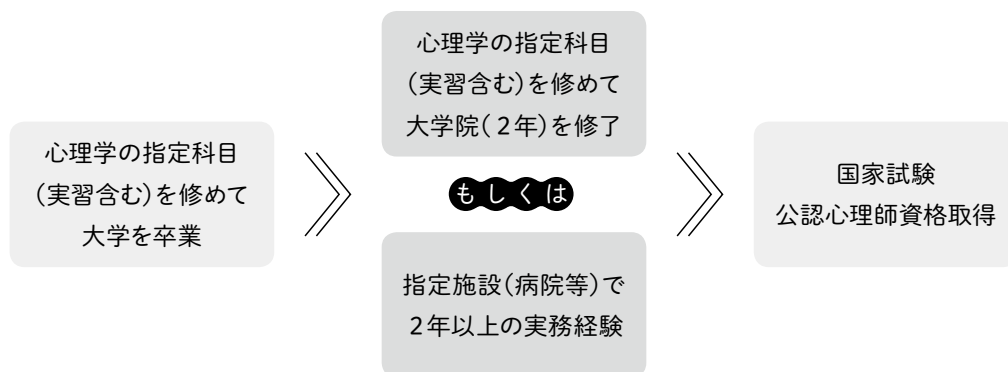
●図1 臨床心理士取得までの流れ

●「公認心理師」

先の通り2019年より登録が始まった、文部科学省および厚生労働省共管の国家資格（名称独占資格）です。公認心理師の業務は「公認心理師法」によって、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次の行為を行うとされています（公認心理師法第2条参照）。

- ①心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること
- ②心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと
- ③心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと
- ④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと

「臨床心理士」と違い、研究に関することは言及されていませんが、図2にあるように基本的には「臨床心理士」と同じく、大学院を修了することが求められています。また学部でも心理学の指定科目を修める必要があり、受験資格取得に必要な期間は最短で6年となります。



●図2 公認心理師取得までの流れ

※現在は、特例措置により上記以外の方法でも受験資格の取得が可能です。
 (詳しくは一般財団法人日本心理研修センター webサイト <http://shinri-kenshu.jp/> 等をご確認ください)

ちなみに、一口で「心理学」といっても、心の健康問題に関する学問である「臨床心理学」以外にも多くの科目があります。「公認心理師」では、表1にあるような心理学および資格関連科目を、学部で全て修得する必要があります。

●表1 大学(学部)で必要になる科目（公認心理師法施行規則 第1条2）

公認心理師の職責	心理的アセスメント
心理学概論	心理学的支援法
臨床心理学概論	健康・医療心理学
心理学研究法	福祉心理学
心理学統計法	教育・学校心理学
心理学実験	司法・犯罪心理学
知覚・認知心理学	産業・組織心理学
学習・言語心理学	人体の構造と機能及び疾病
感情・人格心理学	精神疾患とその治療
神経・生理心理学	関係行政論
社会・集団・家族心理学	心理演習
発達心理学	心理実習（80時間以上）
障害者・障害児心理学	※大学院では、別科目が指定されている他、450時間以上の実習が必要です。

※総合科学部では上記科目を全て開講しています。

これらの多様な科目に対応するため、総合科学部には様々な分野の心理学を専門とする教員が所属しています(表2)。

●表2 総合科学部所属の心理学教員

教員名	研究内容
佐藤 健二 教授	トラウマ・不安・抑うつ・攻撃等の認知行動論的研究
佐藤 裕 教授	知覚機構や認知機能に関する研究
山本真由美 教授	発達への支援と学習支援ボランティアに関する研究
内海 千種 准教授	被害・被災体験と精神的健康に関する研究
福森 崇貴 准教授	がん等の身体疾患患者及び医療従事者の精神的健康に関する研究
山本 哲也 准教授	抑うつや不安をもたらす心の脆弱性の可視化・予測・克服に関する研究
横谷 謙次 准教授	機械学習を用いた心理療法の研究
甲田 宗良 講師	認知療法やマインドフルネスによるメンタルヘルスの保持増進・改善メカニズムと産業・労働分野における臨床研究
津村 秀樹 講師	ストレス、抑うつ、不安、依存等の認知生理心理学的研究

心理職が働く領域

心理職をめざすかどうか迷っている学部学生さんと話をしていると、「仕事先があるのか心配している」という声をよく耳にします。本学で養成を行っている「公認心理師」「臨床心理士」が働く領域は、主要5領域と呼ばれており、以下のような分野です。

- ①医療・保健領域：病院やクリニック、市町村保健センターや精神保健福祉センターなど
- ②教育領域：スクールカウンセラーや学生相談室、教育委員会など
- ③産業・労働領域：企業内のカウンセラー、職業センターなど
- ④福祉領域：児童相談所、各種福祉施設など
- ⑤司法・犯罪領域：家庭裁判所や少年鑑別所、更生保護施設など

上記以外でも、自身でカウンセリングオフィスなどを開業する場合もあります。本学大学院修士課程生も、上記5領域で活躍しています。

「公認心理師」は登録が始まってまだ間がないですが、色々な法律や制度が整備されてきています。例えば、文部科学省によるスクールカウンセラー等活用事業（教育領域）や、厚生労働省による労働安全衛生に関わる業務（産業・労働領域）、がん拠点病院の整備（医療・保健領域）、児童相談所運営の指針（福祉領域）などに「公認心理師」が追加されています。また、診療報酬項目に「公認心理師」の文言が追加されてきていることもあり、今後の職能がさらに期待されているところです。

さいごに

総合科学部で新たに対応が始まった「公認心理師」はじめ、これまで養成している「臨床心理士」のカリキュラムでは、学外での実習が重要な科目として設定されています。実習でお世話になっている機関の中には、清水会会員の皆様もたくさんおられ、熱心にご指導等いただいているところです。この場をおかりして、心よりお礼申し上げます。

体育館の東、きれいに刈り込まれた芝生の広場を散歩していたある日のこと、ふと1本の木が目にとまりました。掌を広げたような葉を繁らせる木——足下には「被爆アオギリ」という看板があります。

「被爆アオギリ」は、昭和20年（1945）8月6日、爆心地から北東へ約1.3km、広島旧広島通信局の中庭で被爆しました。熱線と爆風で傷ついたにもかかわらず、焦土の中で青々と芽を吹き、市民に希望を与えました。広島市ではこの種から育てた苗木を「被爆アオギリ二世」と名付けて、市民団体を通じて全国に配布しています。

徳島県では「徳島映画センター」が中心となって植樹を呼び掛けており、平成27年（2015）3月5日、徳島大学常三島キャンパスにおいて、県下で4か所目となる植樹が行われました。平井松午総合科学部長（当時）が「留学生も含め、学生らにアオギリを通して当時の時代背景を伝え、平和教育に役立てたい」と挨拶し、苗木に土をかぶせました。また、植樹を記念し、3月21日には常三島けやきホールにて、被爆アオギリを題材にした映画『アオギリにたくして』の上映会、パネルディスカッションなども開催されました。

か細く小さかった苗木はぐんぐん成長し、人の背を越し、いまや2mに届こうかというほど。初夏には黄白色の小花を咲かせ、秋には実をつけます。平和のシンボルとして、これからも大切に育てていきたいですね。（事務局）



体育館の東側、河崎良行名誉教授のモニュメント「調和と発展」と体育館の間に植えられています



アオギリは庭木や街路樹などに使われるポピュラーな落葉樹。掌を広げたような葉の形が特徴的です

輝く新星

第6回
渭水会
会長賞

平成26年度に創設された「渭水会会長賞」。これは、研究及び学生としての活動全般において優れた学生に対して贈られるものです。第4回からは、対象を院生にも拡げ、学部生3名・院生1名に贈呈しています。令和元年度は3月23日に表彰式が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症防止のため中止となりました。

令和元年度（第6回）渭水会会長賞の受賞者は
東 亜弥子さん（大学院総合科学教育部博士後期課程 修了）
長樂 楓華さん（社会総合科学科 国際教養コース）
木野 光莉さん（社会総合科学科 心身健康コース）
矢川由衣加さん（社会創生学科 環境共生コース）の4人です。

今、見える景色に感謝



あずま あやこ
東 亜弥子

今年の春、徳島大学を卒業し、現在は大学の教員として研究者の道を歩んでいます。十数年前、他大学を卒業し、管理栄養士をベースに、スポーツ栄養士として働く中で、「ヒト」、「生活環境」、および「運動」における「栄養」との繋がりに興味を持ち、研究したいと数年間指導して頂ける先生を探していました。しかしながら、なかなかご縁がなく、今回もダメだろうな…と思いながら、三浦 哉 先生の研究室を訪問し、指導教員になることを快諾して下さった日のことは、今でも鮮明に記憶に残っています。社会人院生として入学し、仕事と研究との両立に日々励んでいた日を思い出します。

研究生活では、博士課程5年間をとおして、「外的環境下における抗酸化剤の摂取が循環器疾患予防に寄与する可能性に関する研究」をテーマとし、尽力しました。

皆さんもご存知のとおり、わが国における循環器疾患は、悪性新生物と同様に高い死因別死亡割合であることから、これらの疾患を予防することが重要な課題です。循環器疾患発症の危険因子には大きく3つあり、加齢、遺伝からの因子、食習慣、身体活動、および運動習慣などを含める生活習慣などの因子、また、喫煙、騒音、断眠、およびストレスなどといった人に与える外的環境からくる因子が大きく関わるということが知られています。これらを明らかにす

るためには、形態的な血管障害の変化を生じる以前の機能的な障害を捉えることが可能な「血管内皮機能」を用いて評価します。現代社会の人々が直面している生活環境に関連する様々な因子は、循環器疾患のリスクと常に隣り合わせであり、これらについて一次予防に繋がるように考えていくことが必要です。

一方、食物中に含まれる抗酸化物質であり、天然に存在するビタミンCは、血管内皮機能を低下させる活性酸素種および反応性窒素種を除去する抗酸化物質として働き、広くサプリメントとして利用されている水溶性ビタミンです。これらのことから、私は外的環境下（能動・受動喫煙、騒音）における動脈機能について「血管内皮機能」を用いて影響を検討するとともに、抗酸化物質であるビタミンCを一定量摂取させることで、動脈機能への影響について主眼を置き検討を重ねました。

研究を遂行するうえで、研究に対する心構え、方向性、また論文作成に向けた指導以外にも、学会発表での発表の仕方、プレゼンテーションの作成方法に至るまで、時に応じて、厳しく、心折れそうな時には、優しく励まして下さったからこそ、今まで乗り越えてくることができたと思います。この5年間のなかで、研究、論文執筆がうまく進まないだけでなく、仕事で落ち込んだ日もあり、決して楽しい

ことばかりではありませんでしたが、辛く苦しかった時期を、三浦先生だけでなく、同研究室で同期の田村 靖明さん、石川 みづきさんに支え、励まされ、引っ張り上げてもらって、どうにか乗り越えてこられたからこそ、今見える景色があるのだと感じています。

まだまだ、研究者として歩み始めたばかりですが、研究に邁進しながら、スポーツ栄養士として実践と

研究の両輪からのアプローチをしながら、後進の指導に努めていきたいと思います。

最後になりましたが、指導教官を快く引き受けてくださった三浦 哉 教授をはじめ、実験にあたり熱心に協力いただいた応用生理学研究室および関係者各位に感謝申し上げます。

(令和2年 大学院総合科学教育研究部地域科学専攻 博士後期課程修了)

★ 一期一会

ちょうらく ふう か
長樂 楓華



早いもので、大学を卒業してからもう4ヶ月が過ぎようとしています。留学、海外インターン、教育実習…大学生活を振り返ってみると、学年・学科・国籍を問わず多くの人に出会い、本当に充実した4年間だったとひしひしと感じています。

私は海外留学を目標に、徳島大学に入学しました。英語を学び始めた中学生の頃から漠然と海外に興味を持ち始め、いつか絶対に留学しようと心に決めていました。1年生の頃から、カルチャーラウンジに行き、留学生と交流したり、大学内のELCS（英語学習コミュニケーションプラザ）でのアカデミック講座に参加し、ネイティブの先生と英会話をしたりと、英語に触れる時間を多くするように心がけていました。

念願が叶い、2年生の9月から約8ヶ月間、カナダ・ケベック州にあるビショップス大学に留学することになりました。公用語であるフランス語の授業を受けたり、プレゼンテーションやビジネス英語の授業を受けたりなど、日本ではなかなか学べないようなことも学べました。

上手くいくことばかりではなく、辛い想いや悔しい想いもたくさんし、時には投げ出したくなるような気持ちにさえなったこともあります。留学が始まった頃は、専門用語が多い授業はとて難しく感じ、先生の話すスピードについていけないこともよくありました。また、大量の課題に追われ、試験前は夜遅くまで図書館で勉強する日々もありました。授業や勉強もまじめに取り組んでいましたが、それよりも大切にしていたのが友人との時間です。

カナダで出会った友人たちには本当に助けられました。語学面のサポートもしてくれましたが、たわいもない話をする毎日がとても充実していて、大切な時間でした。ご飯を食べ終わっても食堂でずっと話したり、一緒に映画を観たり、旅行に行ったり、どの瞬間も忘れられない思い出となりました。悩んだ時や辛い時には支えてもらい、友人たちがいなければ充実した日々が送れていなかったと言っても過言ではないくらいです。今でも友人たちとは連絡を取り、再会した友人もいます。大切だと思える人たちに出会えたことは、私の人生の財産です。



多くの時間を共にした友人と校舎をバックに記念撮影

タイトルにもありますが、人生は「一期一会」だと私は考えています。どこに行っても必ず人と出会い、出会いがあれば別れもあります。出会うことには意味があり、二度とないかもしれないその瞬間・縁を大切にしなければならないと感じました。出会いの大切さに気付かせてくれたのは、徳島大学の4年間があったからだと思います。



ベトナムで出会ったインターンシップの仲間

命輝く学び

徳島大学に入学したときの、一気に世界が広がった感覚を今でもはっきりと覚えています。授業の内容がより専門的で幅広くなり、関わる人や行動範囲も広がり、そのような環境に身を置けることが嬉しくて勉強や様々な活動に励むことができました。しかし、世界が広がった分、自分には何もないなど感じることも増えました。コンプレックスがあったからこそ、そんな自分を認めるため努力できたのだとも思います。

しかし、この努力が何のためにも誰のためにも生かすことができていないと感じ、落ち込んだ時期がありました。そのようなとき、ありのままの私を受け止めてくれる人が周りにいたおかげで、またゆっくりと歩き出すことができました。支えてくれる人々の大切さを知ったできごとでした。生きていくと自分の力ではどうにもならないこと、一瞬にして当たり前前の幸せを失ってしまうことがあります。そんな中で必死に生きる人に寄り添い、次の一步を踏み出すきっかけを一緒に作れる人になりたいと思うようになりました。そして、なりたい自分になるためのヒントを探すため1年間休学させていただきました。

特に印象に残っているのが東日本大震災での被害が大きかった岩手県のおおつちの大槌町でのボランティア活動です。震災が原因で夢をあきらめてしまうことがないように放課後の子どもの居場所を作り、学習のサポートや心のケアを行う認定NPO法人「カタリバ」で活動させていただきました。震災の悲しみを強さ

この4月から大阪で働き始めましたが、大学時代に経験したことは今でも大きな糧になっています。皆さんも今のうちに、自分のやりたいことをやり尽くす勢いで毎日を過ごし、色々なコミュニティに飛び込んでたくさんの人に出会ってください。

改めて、関わってくださった全ての方々に感謝をすると同時に、徳島大学の益々の発展と皆様の健康を祈っています。

(令和2年 総合科学部社会総合科学科国際教養コース卒)

やかわ ゆい か
矢川 由衣加



に変えるためには子どもとどう関わればよいのか考えながら毎日過ごしていました。そんなとき、あるスタッフの方からかけていただいた言葉が今でもずっと心に残っています。

「何事も捉え方次第でいくらでも自由になれる。学ぶことはその手助けになる。この世に『絶対』『正解』はないということ、そしてそれを自分の意志で定義づけて生きていく強さを、子どもたちに伝えたい」

子どもとの関わり方、そして私が見失いかけていた学ぶ意味を知ることができた瞬間でした。人生の中にはポジティブなこともあれば、ネガティブなこともあります。その事実は変えられませんが、捉え方は何通りも考えられ、それに絶対や正解はないのだと思います。自分が輝く生き方ができるように物事に色づけをすることが大切で、そのためには基礎的な教養を身につけ、様々な体験をすることが重要になってくるのだと感じました。そして、私自身が大学時代に学んだこと、体験したことが、これから



ボランティア期間中に会った、大槌町出身の女の子と
(認定NPO法人「カタリバ」提供)

の人生を明るくしてくれるだろうし、もしかすると誰かを助けることに繋がるのかもしれないと気づきました。人生の根となる部分を育てることのできた休学期間だったと思います。この体験を通して、子どもたちの教育、学びに関わりたいと強く思うようになりました。

そして現在、私は徳島県内の中学校で理科を教えています。日々、理科を通して何を伝えられるか考えています。まず、命の尊さを伝えたいです。理科を教えていると、生きるって本当に奇跡だと感じる



大切な友だちが岩手まで遊びに来てくれました



休学期間中に、笠岡諸島でもステキな経験をしました

ことがよくあります。そして、一人ひとりの命の輝かせ方を共に考えられる教師になりたいと思います。また、実験や観察の際、五感で感じたことを基に科学的根拠から思考、判断できる力を育てられる教師になりたいです。そして、



大槌町のシンボル「ひょっこりひょうたん島」

この力は人権感覚にも繋がると教育実習先の先生から学びました。SNSが流行し、顔も名前も知らない人の発信を一瞬で受け取ることができる時代だからこそ、噂などにとらわれず目の前の事実から判断できる子どもを育てたいです。そして、学校生活で学んだことがどんな形だとしても、子どもたちの人生を必ず明るく豊かにするだろうという強く熱い気持ちを持って、これからも子どもと関わります。

最後になりましたが、渭水会会長賞をいただくことができ大変光栄です。ありがとうございます。徳島大学で学んだこと、出会った方々は私の一生の宝物です。これからも感謝の気持ちを忘れず、一層努力してまいります。

(令和2年 総合科学部社会創生学科環境共生コース卒)

今できる努力を

私は令和2年3月に徳島大学を卒業しました。年末から年明けにかけて、卒業論文の制作に熱が入り、2月の卒論発表会まで本当に一瞬でした。「卒論発表会が終わったら、卒業旅行に行こう」と、何ヵ月も前から友人と計画を立てたり、「卒業式にはどんな袴を着ようか」と悩んだり、新社会人になるまでの約1ヵ月半を心待ちにしていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で海外への旅行は断念、さらには楽しみにしていた卒業式まで中止となり、大学生活でお世話になった先生方や、友人たちとのお別れもあっけなく終わってしまいました。そんなせわしない社会の状況の中で新社会人になることに不

安を感じつつも、社会人になって早4ヵ月が経ちました。コロナの影響は大きいですが、「めげずに頑張ろう」と思えるのは大学時代の経験が大きいと感じています。

私は社会総合科学科心身健康コースに所属し、中高保健体育の教員免許を取得しました。4年次には卒業研究を行うとと

きの ひかり
木野 光莉



卒業式はできなかったけれど袴を着て記念写真



もに、教育実習や教職課程の授業に追われる日々を過ごしていました。苦しく、立ち止まりたいと思うことも多々ありましたが、今思えばあの日々を乗り越えたから今の自分がいるのだと思います。何事にも手を抜かず、こつこつと努力することが自分の力になるということを学びました。また、大切な仲間と出会えたことも大学生活で得た大きな財産です。私は学生時代バレーボール部に所属しており、素晴らしい先輩や後輩にも出会えました。しんどい時、苦しい時、嬉しい時、どんな時も仲間と分かち合い、共に乗り越えてきました。誰かのために行動すること、お互いに感謝すること、協働することの大切さを学び、経験できたことが社会人になった今の自分にもつながっていると感じています。

私が好きな言葉は「努力は必ず報われる」という言葉です。よく「必ず報われるとは限らないけれど、成功した人は皆努力している」と言われます。確かに自分がしてきたこと全てが報われているとは言えません。しかし、何も頑張らずに過ごすのはもったいない私は思います。努力した結果がたとえ失敗であったとしても、それはやはり努力をしたから得られた結果であり、いつかの自分のためになるからです。だから私はこれからも小さな努力を続けていこうと思います。徳島大学で得た大切な経験を活かして、これからさらに精進していきたいと思います。

当時教員免許を取るか迷っていた私に、指導教官の山口鉄生先生は「今がしんどくても取っておいた方が自分のためになる」とおっしゃってくださいました。その言葉があったから私は将来の自分のために頑張ることができました。山口先生には感謝しかありません。本当にありがとうございました。



大切なバレーボール部の仲間



卒論発表会（4年生と指導教官）

この度このような素晴らしい賞をいただくことができ、本当に光栄です。コロナの影響が様々なところで出ていると思いますが、それを乗り越える経験ができるのは今の時代を生きる私たちです。「今」という時間を大切に、そして「今」できることに全力で取り組んでいきたいと思っています。最後になりましたが、徳島大学でお世話になった先生方、私を支えてくれた多くの人に出会えたことに心から感謝申し上げます。徳島大学のさらなる発展をお祈りしています。

（令和2年 総合科学部社会総合科学科心身健康コース卒）

徳島大学総合科学部渭水会会長賞表彰要項[改訂]

（目的）

第1条 研究活動及び学生としての活動全般について優れた者を表彰する。

（表彰人数）

第2条 学部生3名、修士課程（博士前期課程）院生1名とする。ただし、博士後期課程院生においても特に優秀と認められた場合は、1名を表彰人数に追加することができる。

（表彰者の選考）

第3条 学部生は4年次前期終了、修士課程（博士前期課程）院生及び博士後期課程院生は修了・退学時の前期終了までの研究活動・社会活動・成績等に基づいて行う。

- 第4条 1 学部生及び前期課程（修士課程）院生においては、次の基準に該当する者とする。
 （1）研究活動・社会活動等で優れた業績を有する者
 （2）GPA上位者
 2 博士後期課程院生においては、原則として全国的な表彰を受けた者とする。

（表彰の決定）

第5条 表彰の決定は、学部長が招集する選考委員会で協議し、渭水会会長に推薦し、決定する。

（表彰の時期等）

第6条 表彰は、学部生においては4年次後期、院生においては修了・退学時の後期に渭水会会長が行う。
 副賞として1名につき5万円を給する。

（要項の改廃）

第7条 この要項の改廃は、総会の議によって行うものとする。

附 記

- （1）平成29年5月27日（土）の総会で決定し、平成29年度より実施する。
 （2）令和2年5月30日（土）の理事会で決定し、令和2年度より実施する。



|エ|ッ|セ|イ|

とき 「私が軍国少女を生きた時代」を出版して

徳島県退職女性教職員の会 会長 とき
富 田 まゆみ 真由美



2020年春、「私が軍国少女を生きた時代」を出版した。ちょうど戦後75年となる。敗戦時10歳だった人が85歳という今日、戦争体験者の声を聴く機会は、限りなく少なくなってしまう。総務省統計局の推計によると、80歳以上の人口は、1,173万人、総人口12,410万人に占める割合は9.4%と100人に対し10人を切ってしまった。

2017年、政府が「教育勅語」を憲法や教育基本法に反しない形で教材として用いることまでは否定しないとの閣議決定をした。教育勅語は、1948年に憲法に反するとして衆参両院の決議により「排除」され「失効確認」の宣言がされたにもかかわらず、なんで今さら…という思いがした。国会議員で文科大臣を務めた伊吹文明氏（82）は2006年の国会答弁で「戦中の教育に対する反省などから、天皇陛下のお言葉を基本に戦後の教育を作ることは、そぐわないということになり、教育基本法が作られ、衆参両院の議決によって教育勅語は実質的に廃止されたと理解している」と述べている。現役国会議員で80歳代は2人しかいない。

こうした社会状況のなかで、戦前戦中の日常を記

録しておく必要に迫られた。それぞれの日常はその環境や背景によって違っていただろうが、教育は誰もが経験している日常だったはずだ。当時受けた教育を、人々はどのような思いで受け入れていたのだろうか。そして、この日常が戦争に向かわされていたことを、どれだけの人が気づいていたのだろうか。様々な疑問を胸に、聴き取りを進めていった。

証言者となった10人の女性は、少女時代、教育勅語の精神をたたき込まれ、好むと好まざるとにかかわらず軍国少女として成長していった。戦争は彼女たちの日常を奪い、人生を狂わせてしまった。しかし、聴き取りをするなかで、彼女らの語る日常は同じ色に染められているように見えるけれども、時として鮮やかな色を発していたことに気づいた。

それは、幼稚園の先生が「日本で一番偉い人は誰ですか？」と問うと「うちのお父ちゃん！」と胸張って答える幼子の横顔に。そして「先生は日本が勝つと言っているけど、こんなちっぽけな日本が勝つはずがない」とつぶやく女学生に。ある時には小学校の教師が「あなたは教育勅語のどこが守れますか？」と問うと「夫婦相和し…」と答えた子どもに対し、「あなたはまだ結婚してないでしょ」と返す教師の笑顔に。さらに校長先生が教育勅語を読み上げるのをじっと聞いていた子どもの「チンは犬のことか？」とのつぶやきに。「チンハオモワズヘヲヒッタ…ナンジンシンミンクサカロウ、ハナヲツマンデギョメイギョジ」と茶化して口ずさむ子どもたちにいたって

は、教育勅語を抵抗歌にしている。子どもたちは、一色に染めようとする教育をすんなりと受け入れないしたたかさとエネルギーを蓄えていた。

敗戦後、教室で子どもたちは何の説明もされず、



発行／徳島県退職女性教職員の会 500円
購入・問い合わせは ▶ 同事務局 ☎088-633-2929へ

ただ黙々と教科書に墨を塗り続けることになった。戦闘行為は突発的に引き起こされるが、人々を戦争に向かわせていくのは、教育にほかならない。そのことを、私たちは肝に銘じておかなければならない。

少女時代を国家にあやつられ、戦争に翻弄された人生を歩んだけれど、10人の少女たちは、戦争が終わったことを知ると不自由な生活からの解放感に満たされた。敗戦後の貧しさのどん底にいても、体の

隅々に新たな血液が流れるように自由を享受した。彼女たちは異口同音に「戦争をしてはいけない」「平和な世の中が続くように」と言う。使い古された言葉のようだが、戦争の時代を生きた人の言葉には、ずしりとした重みと凄みを感じる。

もう残された時間は少ない。彼女たちの声を若い世代の人たち一人ひとりに届けたい。

(昭和49年 教育学部中学校課程社会科 史学教室卒)



|エ|ッ|セ|イ|

詩と木の彫刻展

高越山の中腹、山と山に挟まれた川田川に沿って犬と散歩をする。短いトンネルをくぐり抜けると少し広い場所に出る。そこで休憩をしていると一本の杉の枯れ木が目に入る。太い幹に何本もの枝が天に向かって伸びている。眺めているとすーと風が吹く。

おおー、もし、どっかから帽子が風に吹かれて枯れ木に引っかかったら……「帽子の木」のシリーズはこの場面から始まりました。

徳島大学で彫刻を専攻し、立体を創ることの楽しさを教えていただきました。卒業後は中学校の教員を3年、後は障がいのある子供たちが学ぶ学校に勤め

【飛び立ち】



ほそかわ なおき
細川 直毅



ました。

この子供たちの学習は一人一人の適性に合わせることで、将来を見据えて生きる力を培うことが大切になってきます。

そのため、私も多くの教員仲間と一緒に勉強し、厳しくも楽しく勤める毎日でした。

その間、彫刻の作品も点数は少ないながら創り続けていました。ところが、40歳代になると、学校の仕事が多忙になるとともに、からだの不自由さを改善する訓練会を仲間と一緒にに行くことになり、休みなしの毎日になりました。このため、彫刻作りを諦めなければならなくなりました。

しかし、退職まで残り少なくなった頃に制作への思いがよみがえりました。騒音で近所迷惑にならない場所はないかと早速アトリエ探しです。高越山の中腹にログハウスがあるとの情報で見に行くと、「ポツンと一軒家」というテレビ番組がありますが、よく似た状況です。お隣に私たちと同じ老夫婦が居住している山と川に挟まれた谷間の家屋です。ここをアトリエにすることにしました。

制作のテーマはやはり自然いっぱいの山の中から生まれてきました。川に沿って白鷺が上流によく飛んでいきます。その羽ばたく姿から「飛び立ち」の作品を創っていきました。また、ここは人里離れた所です。猪・鹿・兎などの動物を見ることができます。



アトリエで制作中の「飛び立ち」

圧巻なのは猿の軍団です。50匹以上の猿が山から川を渡って移動します。もし、猿に橋を作ったらとの発想から「猿の橋」を。珍しい蝶々を沢山見ます。もっともっと沢山の蝶が上流に飛んでいったらとの思いから「ちょっと待ってね」を…

妻は小学校の教員をしていましたが、退職後趣味として「詩」を創っていました。日常の中での様々な出来事や思いを綴ったものです。時々徳島新聞の詩壇に掲載されていました。

お互いの作品の部数が揃ったところで、展覧会をしたいと思い、友人の井下俊作君に相談しました。いろいろなアドバイスと手伝いをしてもらいながら昨年の10月中旬に徳島県立近代美術館で「詩と木の彫刻展」を開くことができました。

初めての夫婦展で不安がいっぱいでしたが、開いてみたら大勢の方々に作品を見ていただくことができました。特に、「詩」とのコラボレーションが良かったようです。「詩」をじっくり読みながら、ちょっと変わった彫刻を鑑賞する。そして、私たち夫婦に問いかけてくれる。これが毎日続きました。

また、子供たちには彫刻の作品を「触ってもいいよ!」「この帽子や蝶は取れるんだよ!」と言うと、帽子を取ってかぶったり、蝶を持って会場を走ったりする。和やかな風景がありました。

会期中、沢山の方から「次の展覧会はいつ頃?」と温かい言葉をいただきました。時間と作品のイメージは豊富にある。後は、体力が続くかなと思います。ながら制作活動を楽しみたいと思います。

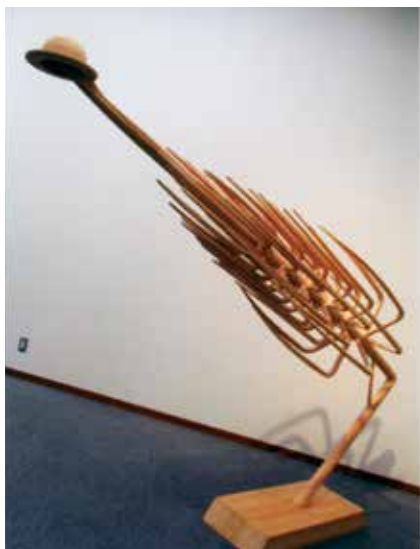
(昭和40年 学芸学部中学校課程美術教室卒)

【ちょっと待ってね】



タイトルは、孫がこの制作時期によく言っていた言葉を拝借

【帽子の木】



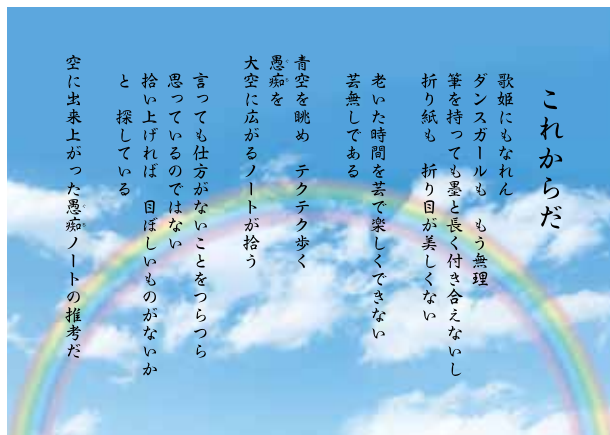
細川直毅・細川芳子「詩と木の彫刻展」の展示風景



見に来てくださった方と作品を囲んで語りました



妻・芳子と(残念ながら香川大学教育学部卒です・笑)



「詩」の作品は、衝立(ついたて)やキャンバス立てにパネルを吊ったりして展示しました

高校・特別支援学校部会総会並びに講演会

総会・講演会・懇親会

日 時 令和元年8月25日(日)

受 付 14:30～15:00

総 会 15:00～15:50

講演会 16:00～17:20

懇親会 17:30～19:30

場 所 ザ・グランドパレス

講演会 講師：徳島大学大学院

社会産業理工学研究部

准教授 内海 千種 氏

演題：「災害後の心身の変化と支援の基本」

令和元年度の高校・特別支援学校部会総会は、8月25日(日)、徳島市のホテルにおきまして、渭水会から濱尾巧久会長様、秋山賢治副会長様、毛利久康理事長様のご臨席を賜り、また、顧問の皆様、高校・特別支援学校の会員各位のご出席をいただき開催されました。総会では、平成30年度の会務報告・決算報告の後、令和元年度の役員選出、会務計



部会長挨拶

画・予算案についての審議を行いました。会務報告・決算報告・会務計画・予算案につきましては、事務局提案のとおり承認されました。令和元年度の役員につきましては、現職の校長が 副会長に、現職の教頭が監事に、退職された校長先生方を顧問に就任させていただくことにご了承いただきました。また、今回の総会において次年度部会長として、徳島県立阿南支援学校の中内貴文校長先生を選出し、中内校長先生よりご快諾をいただきました。来年度につきましても、ご協力お願いいたします。

講演会では、徳島大学大学院社会産業理工学研究部准教授の内海千種先生を講師にお招きし、「災害後の心身の変化と支援の基本」をテーマに、ご講演をいただきました。支援の基本として心理的反応を知ることの必要性や災害後の対応の基本について実例を交えてのお話は、災害後の学校における中長期の心理支援を考える際に役立つ皆さんの指針を与えてくださいました。

今回の講演会は、徳島大学渭水会本部の「渭水会 助成事業」による助成金のもと開催いたしました。本部会には、学芸学部・教育学部・総合科学部卒業の各世代から幅

部会長 やま むら けい じ
山 村 啓 治

広くご参加いただきました。世代は異なっても、同じ徳島大学渭水会という同窓の絆を確認し、友好を深める場となりました。今後とも、大勢の会員の皆様のご参加をお願いいたします。

(昭和57年 教育学部中学校課程数学教室卒)



講師：内海 千種先生



講演会の様子

徳島市退職校長会講演会

徳島市退職校長会は、会員の研修と相互の親睦を図り、併せて本市の教育振興に寄与することを目的として活動を続けています。主な活動として、「総会・新入会員歓迎会」「叙勲・大臣表彰(章)等祝賀会並びに講演会」に加え、教育支援部が中心になって、子ども支援活動を行っています。

「歩く廻路遠足サポート事業」として、学校行事の遠足のお手伝いをしています。

世界に誇る文化遺産である四国八十八か所のお寺を訪ねることで、身近のすばらしい先人の歩みを理解するとともに、それを守り、自らのことばで世界に発信できる子どもの育成に寄与しています。

同時に、子どもたちと「同行二人」、共に歩くことで、子どもたちの体力向上、私たち会員の体力維持の一助になればとも考えております。

さらに、会員の絆を深めるための活動として、「いきいきサロン」を実施し、会員相互の親睦・情報交換にも努めています。

では、今年度開催の「祝賀会・講演会」での「講演」について次のご報告いたします。

1. 期日 令和元年12月8日(日)
2. 会場 ホテルグランドパレス徳島
3. 演題 「多様な国メキシコの輝き」
4. 講師 井上 正子 氏
5. 講演要旨

★メキシコの現状について

メキシコ合衆国は面積は日本の約6倍で人口は1億3000万人である。複数の高度な先住民文明の拠点として繁栄を究めた。2018年12月1日にロペス・オブラドール新大統領が就任し、新内閣は18閣僚中8名が女性閣

ふじ た まさ はる
藤 田 正 治



僚である。治安・汚職府処罰・格差等の諸問題を抱えている。近年は特に日本の自動車企業の進出が進み、メキシコ経済の活性化に寄与している。

★教育の現状等

メキシコ国立自治大学では30万人の学生が学んでおり、ノーベル賞受賞者も3人卒業生の中にいる。

★メキシコの女性

レディーファーストは常識であるが「マチ

スモ（男らしさ、男性優位主義）」は根強く残っている。女性の状況は民族・居住地域などにより大きく異なる。

★歴史・文明・民族の混在と共存

階層の格差が大きく、経済社会も二分化している

《参加者の感想》

メキシコはアメリカ合衆国の隣の国で映画等でもなじみの国だと思っていたが、思いもかけない現状をたくさん教えていただき、感銘を受けた。世界幸福度調査2018年では、世界で4位（日本は18位）であり、なぜなのかと疑問を持ちました。そのわけはメキシコ人の人生観、楽天的、歌いなさい、今日が幸せに起因していることを教えていただき、見習うべき部分もあるなと思いました。

（昭和53年 教育学部中学校課程地学教室卒）



第4回公演 阿波の国子ども歌舞伎

～感動を原動力にして前進しよう～



三番叟

NPO法人 阿波の国子ども歌舞伎は、徳島県下各地から子どもたちを公募し、子どもたちが歌舞伎にふれ、体験し、演じることによって、豊かな感性を育み、徳島県の文化振興に寄与するとともに、伝統文化に対する次世代の担い手を育成することを目標としています。第4回公演でも、およそ20日間余りの稽古を行い、せりふ・所作を習得していき、あわぎんホールで発表できました。一人ひとりに合った衣裳・髪、舞台等もすべて本物で、県内唯一の子どもたちが演じる歌舞伎をみんなで作り上げました。

一 阿波三番叟

作詞：水口一夫（大阪松竹関西演劇部 歌舞伎の脚本・演出家）

作曲：苦舟（藤間流宗家藤間勘十郎）、振り付け：水口一夫

※水口一夫は初回から子どもたちに歌舞伎を指導。

二 口上

三 恋飛脚大和往来 新口村

近松門左衛門作の人形浄瑠璃「冥途の飛脚」を改作し、歌舞伎にうつしたものの「新口村の段」を、子ども用に脚本したものを演じました。

①活動実施日 令和元年12月22日（日）

②場 所 あわぎんホール1階ホール

【成 果】

今回の公演は、徳島県民になじみのある人形浄瑠璃の三番叟を、子どもたちが演じる「阿波三番叟」を取り入れました。この「阿波三番叟」は阿波の国子ども歌舞伎のために作ったものであり、徳島の自然・産物・歴史が繰り込まれており、曲は長唄でよこのリズムも取り入れたものです。初のお目見えで、お披露目ができました。

子どもたちにとって、初の挑戦ですが、1年生と5年生2人（計3人）が大変すばらしい踊りを披露することができ、前進できました。

口上を演じた3年生の子どもも、次は三番叟に挑戦したいと言っております。「新口村」に於いても内面を表す難しい演目ですが、役になりきり三味線・浄瑠璃の方と合わせ、仲間とひとつになり、作り上げた体験は何ものにも代えがたものでした。子どもたちは歌舞伎のすばらしさを十分感じ取ってくれました。

また、中学生となった卒業生には、前回同様、裏方に参加してもらいましたが、歌舞伎のすばらしさ、大勢の力で成り立っていることを感じ取ったようです。

将来にわたり地域文化に携わり、伝統文化

せ と ま さ こ
瀬 戸 昌 子

の良さ・理解者・後継者となり、徳島県の文化振興に寄与するであろうと確信しました。

当日、来場の方にアンケートをお願いした結果「大変素晴らしかった」「毎年観たい」「笑いと涙と感動をいっぱいもらいました」「次回も楽しんでいますよ」「歌舞伎っていいね!」「子どもたちがこのような伝統文化に触れることは素晴らしい」「徳島の文化となつてほしい」と称賛の声をたくさんいただきました。

【今後のビジョン】

来年度はより広めるために、層を厚くするために、「阿波三番叟」の体験教室を開催します。それらの成果を踏まえ徳島県の文化である「人形浄瑠璃の三番叟」と阿波の国子ども歌舞伎の「阿波三番叟」のコラボレーション、つまり、人形と人間の絡み合う構想を持っています。

今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（昭和44年 学芸学部小学校課程歴史教室卒）



新口村

総科ニュース

※この総科ニュースについての詳細は、徳島大学総合科学部総務係にお尋ねください。

徳島大学総合科学部総務係 TEL：088-656-7103 FAX：088-656-7298

E-mail：sksoumk@tokushima-u.ac.jp

【総合科学部の1年】

令和元年(2019)7月～令和2年(2020)6月

＊令和元年7月～令和2年1月 徳島大学総合科学部公開セミナーを開催

一般の方や大学生、高校生を対象とした市民講座である徳島大学総合科学部公開セミナー「人文知・社会知への誘い」を下記のとおり、開催しました。

令和元年(2019)

第23回 7月26日(金) 衣川 仁 教授

「呪われたらどうすべきか

～祈りからみる日本中世～」

第24回 9月27日(金) 田中 佳 准教授

「社会の中のアート

～ルーヴル美術館からホスピタルアートへ～」

第25回 11月29日(金) 佐藤 充宏 教授

「障がい者スポーツを考える

～パラリンピックムーブメントって何?～」

令和2年(2020)

第26回 1月31日(金) 塚本 章宏 准教授

「デジタルマップの地域貢献 ～地理情報システム(GIS)による可視化を通して～」

＊令和元年7月27日(土) 総合科学部振興会総会ならびに保護者懇談会の開催

在学生の保護者会である総合科学部振興会の評議員会・総会ならびに保護者懇談会(午後)が開催されました。参加者(延べ数)は延べ100名(実数53名)。

＊令和元年8月8日(木) オープンキャンパスの開催

総合科学部(社会総合科学科)のオープンキャンパスが開催されました。参加者数(延べ数)は、844名(保護者等含む)。

＊令和元年9月19日(木) 徳島大学びざん会の開催

徳島大学びざん会(同窓会連合会)がザ・グランドパレスで開催されました。

＊令和元年9月26日(木)・27日(金) 地域系大学・学部連携協議会に参加(愛媛県)

＊令和元年10月3日(木)・4日(金) 国立大学法人17大学人文系学部長会議に参加(当番校)

徳島大学総合科学部主催により、第19回国立大学法人17大学人文系学部長会議が徳島ワシントンホテルで開催され、大学改革にともなう学部・大学院の改組の現状と今後の課題等について意見交換されました。

＊令和元年10月17日(木) 優秀学生(3年次学生)表彰式

学業成績が優秀な学部学生(3年次学生)に贈られる優秀学生表彰式があり、学部3年次の優秀学生8名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔国際教養コース〕緒方 麻衣、七條あかね

〔心身健康コース〕熊本 晃大、中尾 奈緒

〔公共政策コース〕志方 太祐、村上 梨沙

〔地域創生コース〕山下 真美、東 凌平

＊令和元年11月21日(木) 学部長と学部学生との懇談会を開催

学生9名、教職員8名が参加し、学生委員長の司会により、事前アンケートで寄せられた質問・意見を中心に、学生からの質疑に答える形で行われました。

＊令和2年2月10日(月) 康楽賞贈与式の举行

徳島大学の優秀な専任教員および学生を対象とした公益財団法人康楽会による康楽賞の贈呈式が、長井記念ホール(蔵本キャンパス)で举行されました。総合科学部の受賞者は次の方々です。

〔教員の部〕

山口 裕之 教授「フランス近代哲学を出発点として哲学史・科学史を捉えなおす研究」

〔学生の部 学術研究関係〕

大学院総合科学教育部 博士後期課程

3年次 田村 靖明

総合科学部4年次 藤本 恵理那、木野 光莉

〔学生の部 奨学生関係〕

大学院総合科学教育部 博士前期課程

1年次 山下 裕子

総合科学部4年次 岡村 英作、中井木の実

総合科学部3年次 石井 真由

＊令和2年2月17日(月) 学長と学生との懇談会を開催

総合科学部からは学生4名(総合科学教育部1名、総合科学部3名)が出席しました。

***令和2年2月26日(水) 教育部長と大学院学生との懇談会を開催**

修了予定者4名、教職員7名が参加し、大学院教務・入試委員長の司会により、大学院生活、履修、修士論文、大学の設備などについての懇談が行われました。

***令和2年3月23日(月) 平成31年度卒業式・修了式ならびに優秀学生表彰式**

アスティとくしまで午前10時からの挙行が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となりました。学部卒業生は159名、大学院修了者は博士前期課程の地域科学専攻24名、臨床心理学専攻11名、博士後期課程地域科学専攻が4名。優秀学生表彰者の4年生は次のとおりです。

〔国際教養コース〕平岡 愛子、河野智帆里
〔心身健康コース〕木野 光莉、廣田 まい
〔公共政策コース〕岡村 英作、神崎 由依
〔地域創生コース〕竹田 晴香、藤本恵里那
〔社会創成学科〕矢川由衣加

***令和2年3月23日(月) 渭水会会長賞の授与**

卒業式当日、12時40分より総合科学部第2会議室で開催が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となりました。受賞者は次のとおりです。(→P24)

〔大学院総合科学教育部博士後期課程〕
東 亜弥子
〔総合科学部社会総合科学科国際教養コース〕
長樂 楓華
〔総合科学部社会総合科学科心身健康コース〕
木野 光莉
〔総合科学部社会創生学科環境共生コース〕
矢川由衣加

***令和2年4月6日(月) 令和2年度入学式**

アスティとくしまで午前10時からの挙行が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となりました。入学者数は、総合科学部175名、大学院創成科学研究科地域創成専攻修士課程11名、臨床心理学専攻修士課程10名、大学院総合科学教育部博士後期課程5名。

***令和2年5月30日(土) 渭水会理事会(総会)の開催**

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、理事会をもって総会に替えることとなりました。

***令和2年6月24日(水) 令和2年度総合科学優秀賞受賞者表彰式の挙行**

優れた研究成果を発表した総合科学部教員に対して贈られる総合科学優秀賞に塚本章宏准教授が選出され、表彰式が行われました。研究テーマは、「人間文化・人間社会の向上に関する基盤研究」です。(→P10)

【人事異動】

***副学部長の紹介**

総合科学部の副学部長(グローバル化担当)に田久保浩 教授が選出されました。任期は令和2年5月7日～令和3年3月31日まで。

***コース長の紹介**

総合科学部社会総合科学科の国際教養コース長に村上 敬一 教授が選出されました。任期は令和2年4月1日～令和3年3月31日までの1年間。

***教職員の異動**

令和2年3月31日付で、次の教員が退職されました。
眞弓 浩三 教授(環境経済学)
STURGE DONALD WADE 准教授(English Literature)
富塚 昌輝 准教授(日本近現代文学)
土屋 敦 准教授(社会学)
樋口 直人 准教授(社会学)

令和2年4月1日付で、次の事務職員が着任されました。

佐藤 彰勇 氏(学務係長)
阿部 碧 氏(学務係事務員)
岩生 恭彦 氏(学務係事務員)

令和2年7月1日付で、次の事務職員が着任されました。

大森 理佐 氏(総務係長)

***新任教員の着任**

令和2年4月1日付で、次の教員が総合科学部に新たに着任されました。

河田 和子 准教授(日本近現代文学)
渡邊 克典 准教授(社会学)

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報ならびに本学HP

(<https://www.tokushima-u.ac.jp/>) をご覧ください。

また、徳島大学同窓会連合会のFacebook (<https://www.facebook.com/bizankai/>) を開設しました。

徳島大学の情報をよりリアルタイムでお届けします。ぜひ、「いいね!」をよろしくお願いします。

Facebook



1

オープンキャンパス2020の開催中止及び オープンキャンパスWEB版の開設について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、徳島大学常三島キャンパス、蔵本キャンパスにて、例年8月に開催するオープンキャンパスを中止しました。

なお、入試制度が転換する年となること、また、より多くの方に徳島大学を知っていただくため、徳島大学オープンキャンパスWEB版を開設しました。詳しくは、下記URLをご確認ください。

徳島大学オープンキャンパスWEB版https://www.tokushima-u.ac.jp/apnavi/open_campus.html

2

徳島市民病院へフェイスシールドを納品

6月1日、本学学生が設計し、本学イノベーションプラザ及び地域協働技術センター（技術支援部が管理）が所有する3Dプリンターを用いて作製した簡易フェイスシールド40個を、徳島市民病院に納品しました。

徳島市の内藤市長から、緊急を要する際に受付等で使用するために必要なものとして本学に依頼があり、本学理工学部4年の前田隼輝さんが、他大学や病院が公開している設計図を基に改良を加え作製したものです。

3

徳島大学広報誌『とくtalk』2020夏号 の休刊について(お知らせ)

本学広報誌『とくtalk』について、従来は年間4回発行しているところですが、7月発行予定で

4

徳島大学バイオイノベーション研究所 (BIRC)を開所しました

あった「2020夏号」につきましては、新型コロナウイルスの影響により、例年どおりの取材・執筆・編集作業を行うことができなかったため、休刊させていただきましたこととなりました。

徳島大学では、令和2年7月1日に、地域連携の拠点、実践教育・研究フィールドの拠点、オープンイノベーションの拠点として、「徳島大学バイオイノベーション研究所(BIRC)」を開所しました。

本研究所は、常三島キャンパス（総科、理工、生物）、蔵本キャンパス（医、歯、薬）、生物資源産業学部農場（農・畜産）、水圏教育研究センター（水産）、新野キャンパス（植物、林業）が一体となり、学内外が連携して異分野融合研究を進め、大学発ベンチャーの創出を加速させることを目的としています。

5

移動型PCR検査施設を徳島県立中央病院で稼働

徳島大学の生物資源産業学部と医学部は、トヨタグループの株式会社ジェイテクトと共同で、移動型試験施設の開発を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大抑制と徳島県民の医療向上を目的として、本施設を緊急改造し、令和2年7月から8月までの間、徳島県立中央病院に配置することとなりました。クラスター発生時の現地PCR検査への協力等により、検査の迅速化および検査数の拡大と、医療者の安全確保を目指します。

徳島大学基金へのご協力をお願い

「徳島大学基金」は、皆さまから事業区分ごとにご支援いただいた寄附金を基金として積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。平成28年にリニューアルし、webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能となりました。また、古本の買取額を募金していただく取組も行っています。

詳しくは徳島大学基金ホームページ (<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/>) をご覧ください。

●基金に関するお問合せ

徳島大学基金事務局（担当：総務部同窓生・基金室） TEL. 088-656-9981

●申込手続き、税制上の優遇措置に関するお問合せ

徳島大学財務部資産管理課 TEL. 088-656-7037

徳島大学基金

検索



事務局だより

●助成事業の申し込みについて

助成事業の要項に該当する事業をご計画の会員がおられましたら、お申し込みください。P41の申請書をコピーしてお使いください。事務局にご連絡いただければ、様式（Word形式）をお送りします。お問い合わせ・お申し込みについては事務局までお願いいたします。

●異動届のお願い

会員相互の親睦等同窓会活動に、また、会報のお届けにと名簿は、渭水会にとって、重要な財産のひとつです。名簿の整備には、鋭意努力しておりますが会員の皆様方のご協力が不可欠です。

現在、転居等により会報をお届けできていない会員も多数おられます。お手数ですが異動等ございましたらその都度事務局までお知らせいただければ幸いです。

会員数も膨大になり同姓同名の会員もおられます。誤記を避けるためにも、卒業（修了）年、課程（学科）、専攻（コース）、旧姓を記載いただき、できるだけ文書・ファックス・メールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

●終身会員の募集についてのお願い

渭水会では、昭和54年入学生より終身会費制になりましたが、まだご存じない方がおられます。同窓会の折に渭水会の組織・事業等をお話いただき終身会員になってくださるようお勧めいただければ幸いです。終身会員には会報が郵送されます。

終身会費納付額

卒業（修了）年	納付額
昭和21年以前	4,500円
22～27	7,500円
28～33	10,500円
34～39	13,500円
40～45	16,500円
46～51	19,500円
52～57	22,500円

郵便振替口座番号 01610-1-21392
加入者名 徳島大学渭水会

なお、会報がお手元に届いている方は、すでに終身会員ですが、ご自分が終身会員かどうか分からない方は、事務局までお問い合わせください。

渭水会事務局

事務局は総合科学部1号館北棟1階入り口すぐ（部屋番号1N01）です。

業務時間および連絡方法は、以下の通りです。

時間／水曜日 13：30～17：00

（祝祭日および大学の休業日は除く）

TEL 088-656-7293（月～金 10：00～17：00）

FAX 088-679-8485

E-mail info@isuikai.jp

URL <https://www.isuikai.jp>

編・集・後・記

●昨年と同じようにキャンパスでは桜が咲き、新緑が揺れ、そして今、葉が色付く季節となっています。ですが今年は主役である学生の姿がまばらです…。COVID-19は学生の生活も教職員の日々の業務も大きく変えてしまいましたが、新たな日常が戻るまで、キャンパスを見守っていききたいと思います。

またその様子を会報でお伝えしていきますので、あたたかく見守っていただけましたら幸いです。(U3)

●昨年はホームカミングデーにご参加いただきありがとうございました。なつかしいキャンパスの写真

を見ながら歓談し、学食で杯を酌み交わす同窓生……ソーシャルディスタンスもマスクもない頃が懐かしい…。また節目の年に開催できればと考えています。その頃には「withコロナ」という言葉が懐かしく思えることを願いつつ。

●新型コロナの影響で自宅で過ごす日が増え、趣味の読書が復活しました。緊急事態宣言下の先行きが見えない中、“ここではない何処か”に連れていってくれる本は何よりの慰めでした。

特集では「読み物 書き物」と題し、執筆活動をされている方を紹介しています。ぜひ著書を手にとってみてください。(ね)



ユーカリの花 (総合科学部キャンパスにて)